

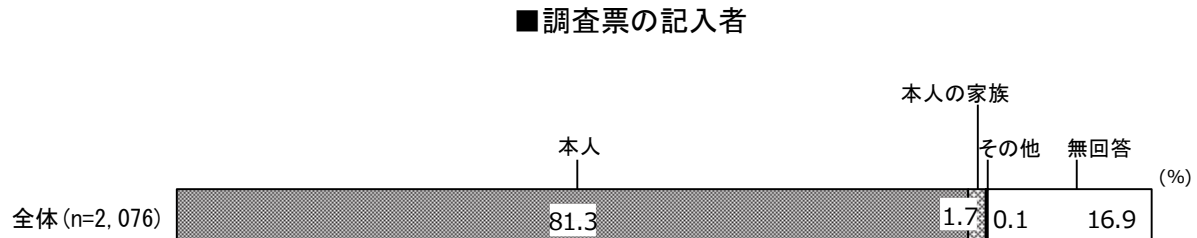
第2章 各調査の結果

1. 高齢者一般調査

(1) 基本属性

① 調査票の記入者 (問1)

調査票の記入者は、「本人」が81.3%、「家族」が1.7%となっている。



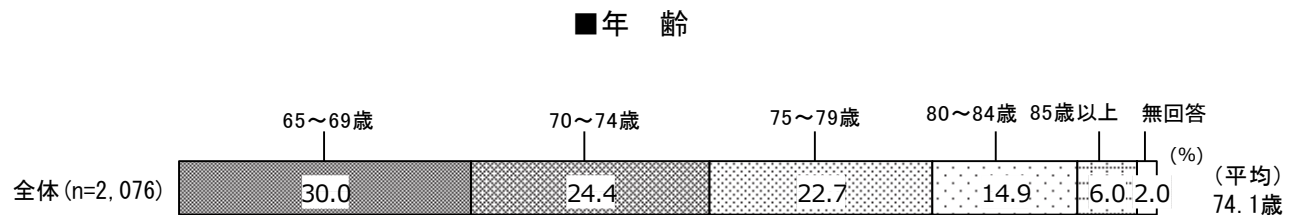
② 性別 (問2)

性別は、「男性」が45.4%、「女性」が53.3%となっている。



③ 年齢 (問3)

年齢は、「65～69歳」(30.0%)が最も多く、「70～74歳」(24.4%)、「75～79歳」(22.7%)と続いている。なお、前期高齢者は54.4%、後期高齢者は43.6%、平均は74.1歳となっている。

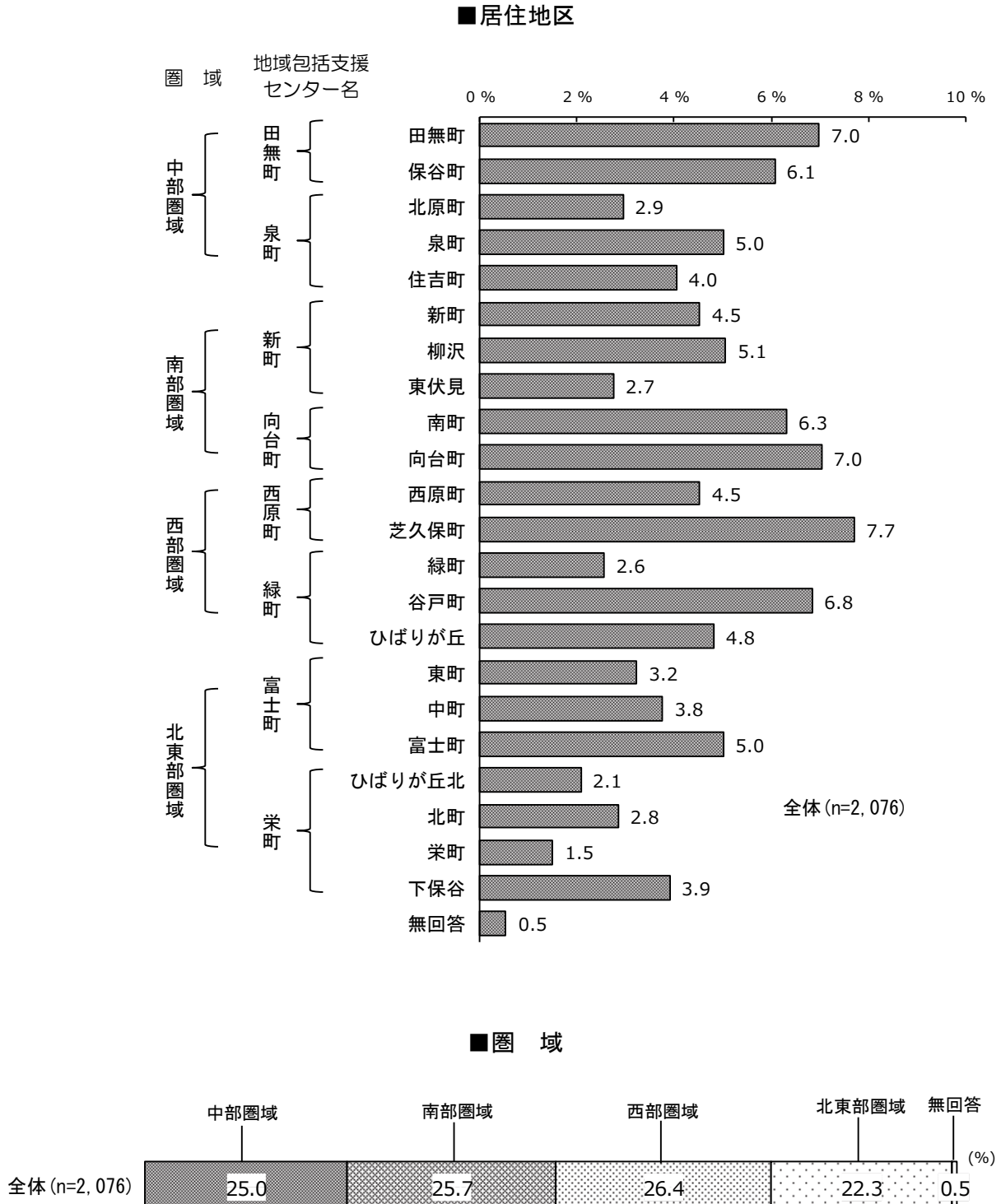


第2章 各調査の結果

④ 居住地区（問4）

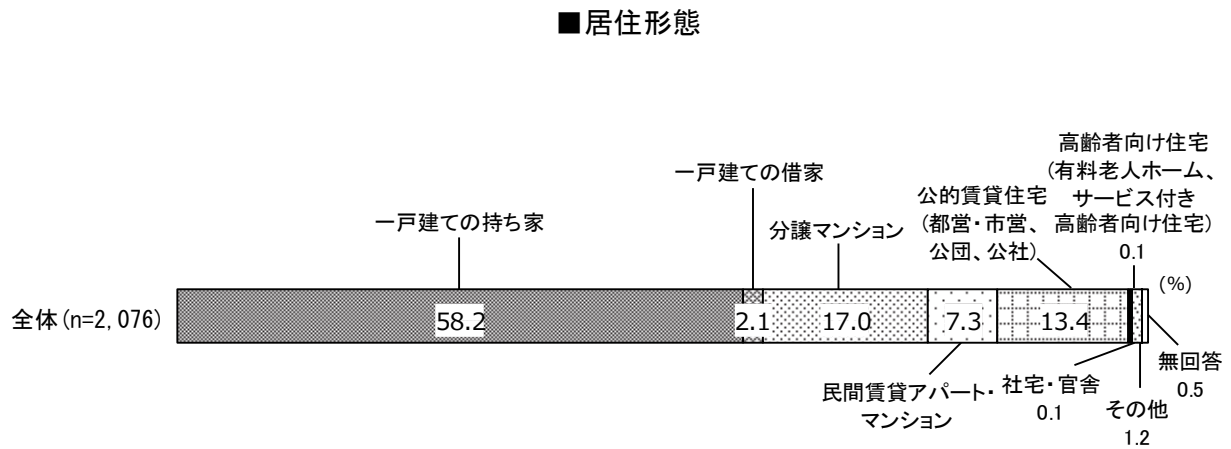
居住地区は、「芝久保町」（7.7%）が最も多く、「田無町」「向台町」（ともに7.0%）、「谷戸町」（6.8%）と続いている。

圏域で見ると、「西部圏域」（26.4%）が最も多く、「南部圏域」（25.7%）、「中部圏域」（25.0%）、「北東部圏域」（22.3%）と続いている。



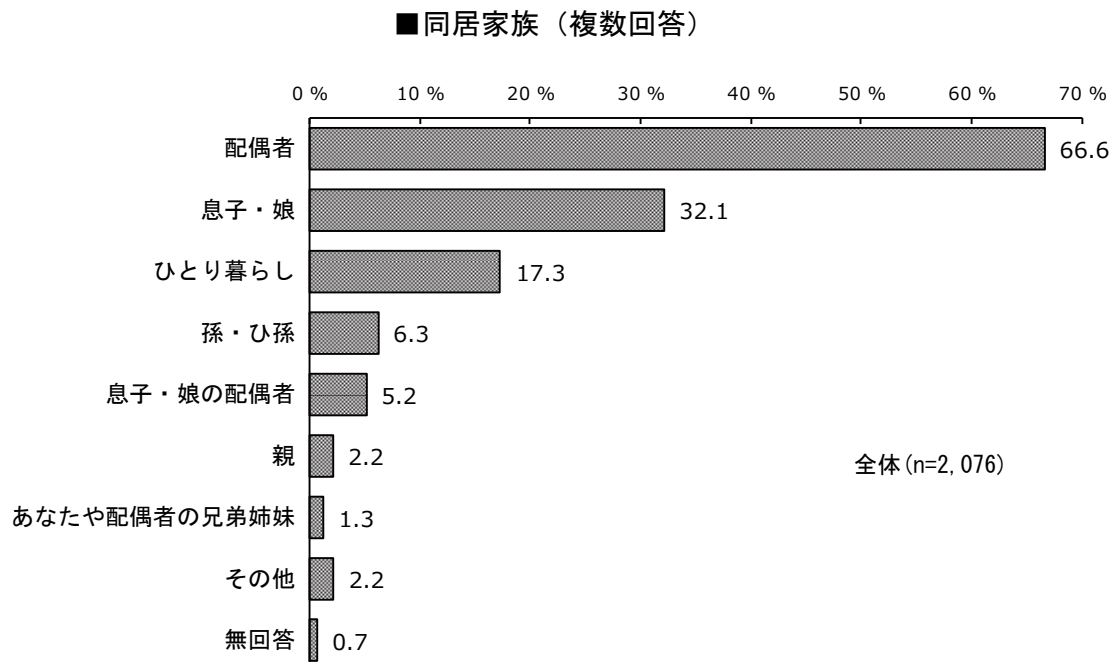
⑤ 居住形態（問5）

居住形態は、「一戸建ての持ち家」(58.2%)が最も多く、「分譲マンション」(17.0%)、「公的賃貸住宅（都営・市営、公団、公社）」(13.4%)と続いている。



⑥ 同居家族（問6）

同居家族は、「配偶者」(66.6%)が最も多く、「息子・娘」(32.1%)、「ひとり暮らし」(17.3%)と続いている。



第2章 各調査の結果

性・年齢別にみると、「ひとり暮らし」は女性の85歳以上で35.7%、女性の75～84歳で24.2%と多くなっている。

■【性・年齢別】同居家族（複数回答）

		(%)									
		配偶者	息子・娘	らひとり暮らし	孫・ひ孫	の息子・配偶者・娘	親	兄弟姉妹	あなたや	その他	無回答
全	体 (n=2,076)	66.6	32.1	17.3	6.3	5.2	2.2	1.3	2.2	0.7	
男	性 計 (n=942)	80.1	31.7	12.0	4.7	4.5	2.7	0.8	1.5	0.1	
	65～74歳 (n=515)	79.6	31.3	13.8	2.7	2.3	4.5	1.0	1.4	-	
	75～84歳 (n=354)	82.2	31.6	9.0	6.2	5.4	0.6	0.8	1.4	0.3	
	85歳以上 (n=55)	69.1	40.0	16.4	12.7	20.0	-	-	1.8	-	
	無回答 (n=18)	88.9	22.2	5.6	5.6	-	-	-	5.6	-	
女	性 計 (n=1,106)	55.5	32.6	22.0	7.8	5.8	1.7	1.7	2.8	0.5	
	65～74歳 (n=605)	62.3	31.7	19.0	5.8	3.8	3.1	2.1	2.6	0.3	
	75～84歳 (n=418)	50.5	32.8	24.2	10.5	7.7	-	1.4	3.3	0.7	
	85歳以上 (n=70)	24.3	37.1	35.7	10.0	12.9	-	-	-	1.4	
	無回答 (n=13)	69.2	46.2	15.4	-	-	-	-	7.7	-	

⑦ 同居者全員の年齢が65歳以上（問6付問）

同居者がいる人（問6で「ひとり暮らし」以外に回答した人）の同居者全員の年齢が65歳以上という回答は、「はい」が49.8%、「いいえ」が45.2%となっている。

■同居者全員の年齢が65歳以上 〈同居者がいる人〉



⑧ 平日の日中独居の状況（問7）

平日の日中独居の状況は、「ひとりであることが多い」が27.8%、「ひとりであることは少ない」が64.5%となっている。

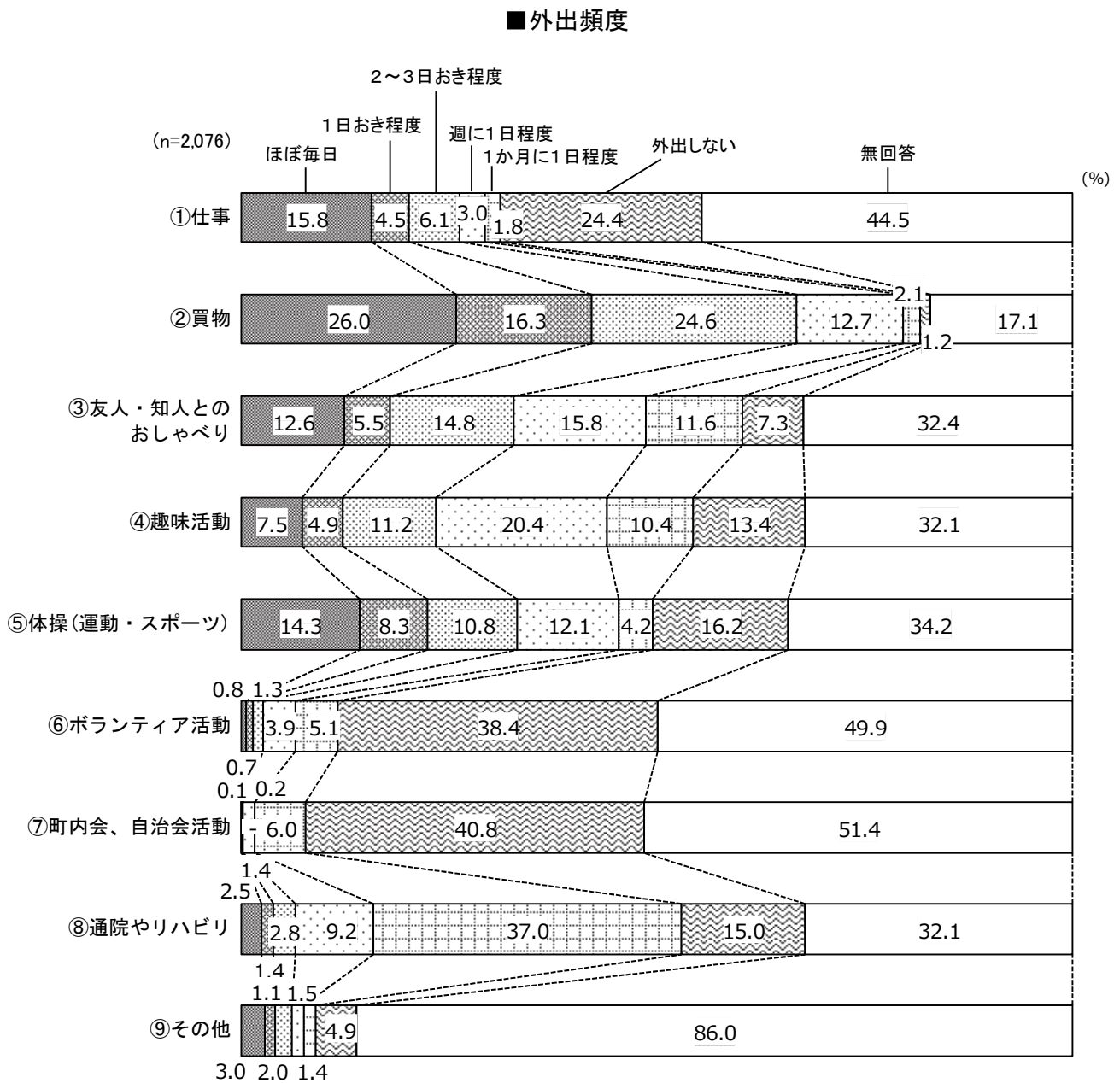
■平日の日中独居の状況



(2) 日ごろの生活

① 外出頻度 (問8)

外出頻度は、仕事は「外出しない」(24.4%)が、買い物は「ほぼ毎日」(26.0%)が、友人・知人とのおしゃべりは「週に1日程度」(15.8%)が、趣味活動は「週に1日程度」(20.4%)が、体操(運動・スポーツ)は「外出しない」(16.2%)が、ボランティア活動は「外出しない」(38.4%)が、町内会、自治会活動は「外出しない」(40.8%)が、通院やリハビリは「1か月に1日程度」(37.0%)がそれぞれ最も多くなっている。



第2章 各調査の結果

全体 (n=2,076) (%)

	ほぼ毎日	1日おき程度	程2度 3日おき	週に1日程度	程1度 か月に1日	外出しない	無回答
①仕事	15.8	4.5	6.1	3.0	1.8	24.4	44.5
②買物	26.0	16.3	24.6	12.7	2.1	1.2	17.1
③友人・知人とのおしゃべり	12.6	5.5	14.8	15.8	11.6	7.3	32.4
④趣味活動	7.5	4.9	11.2	20.4	10.4	13.4	32.1
⑤体操(運動・スポーツ)	14.3	8.3	10.8	12.1	4.2	16.2	34.2
⑥ボランティア活動	0.8	0.7	1.3	3.9	5.1	38.4	49.9
⑦町内会、自治会活動	0.1	-	0.2	1.4	6.0	40.8	51.4
⑧通院やリハビリ	2.5	1.4	2.8	9.2	37.0	15.0	32.1
⑨その他	3.0	1.1	2.0	1.5	1.4	4.9	86.0

買物について圏域別にみると、圏域による外出頻度に大きな違いはみられない。

■【圏域別】外出頻度(買物)

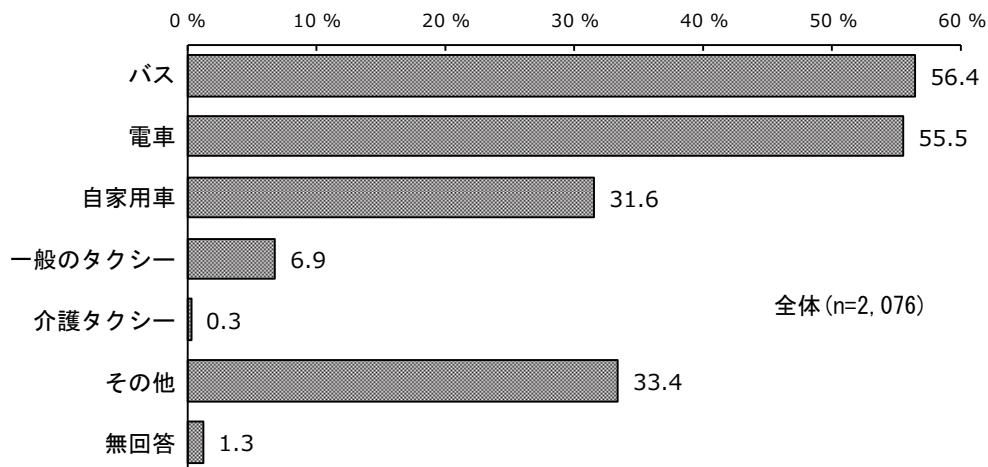
(%)

	ほぼ毎日	1日おき程度	程2度 3日おき	週に1日程度	程1度 か月に1日	外出しない	無回答
全体 (n=2,076)	26.0	16.3	24.6	12.7	2.1	1.2	17.1
中部圏域 (n=520)	25.0	18.1	22.7	13.7	2.1	0.6	17.9
南部圏域 (n=533)	25.7	15.4	25.3	13.9	2.3	1.5	15.9
西部圏域 (n=549)	27.1	13.8	25.1	12.0	1.6	0.9	19.3
北東部圏域 (n=463)	26.3	18.4	25.3	11.4	2.6	1.7	14.3
無回答 (n=11)	9.1	18.2	27.3	-	-	-	45.5

② 外出するときに主に利用している交通手段（問8付問）

外出するときに主に利用している交通手段は、「バス」（56.4%）が最も多く、「電車」（55.5%）と続いている。

■外出するときに主に利用している交通手段（複数回答）



圏域別にみると、全体と比べて北東部圏域は「電車」（64.6%）が多く、「バス」（46.7%）が少なくなっており、バスは南部圏域（61.7%）と西部圏域（62.3%）で多くなっている。

■【圏域別】外出するときに主に利用している交通手段（複数回答）

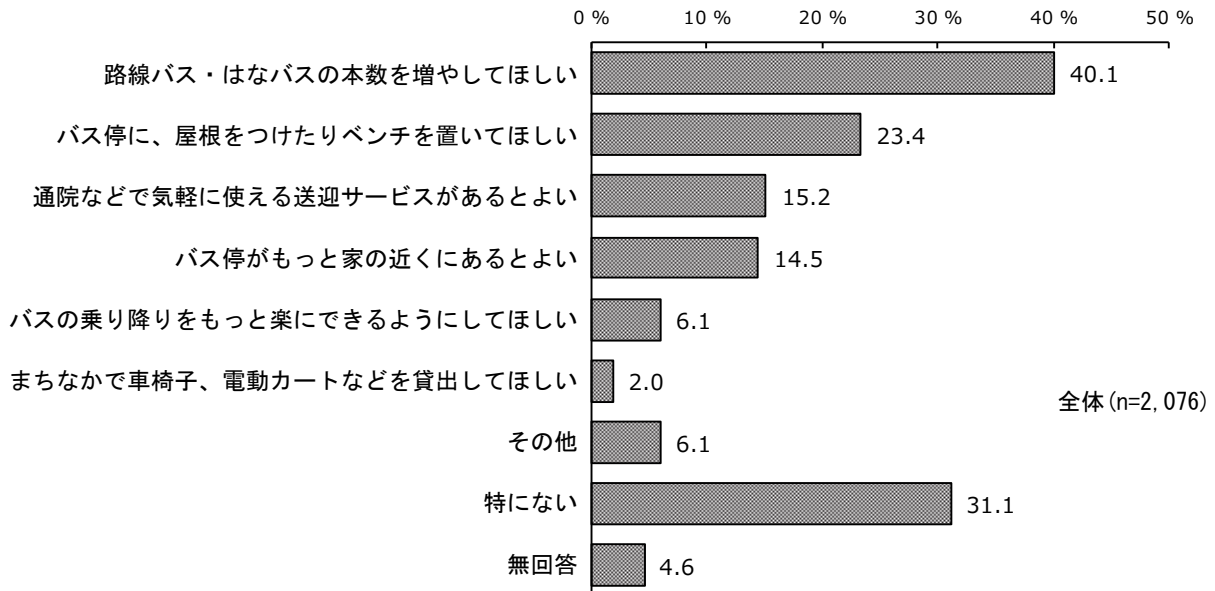
	バス	電車	自家用車	一般のタクシー	介護タクシー	その他	無回答
全体 (n=2,076)	56.4	55.5	31.6	6.9	0.3	33.4	1.3
中部圏域 (n=520)	53.7	54.0	31.3	6.7	0.4	38.7	1.0
南部圏域 (n=533)	61.7	53.1	30.8	8.4	0.2	31.3	1.9
西部圏域 (n=549)	62.3	51.7	30.1	6.7	0.2	31.0	1.3
北東部圏域 (n=463)	46.7	64.6	34.8	5.2	0.6	32.6	0.2
無回答 (n=11)	45.5	45.5	18.2	18.2	-	36.4	36.4

(%)

③ 住み続けるために必要な交通手段や移動手段（問9）

住み続けるために必要な交通手段や移動手段は、「路線バス・はなバスの本数を増やしてほしい」（40.1%）が最も多く、「特にない」（31.1%）、「バス停に、屋根をつけたりベンチを置いてほしい」（23.4%）と続いている。

■住み続けるために必要な交通手段や移動手段（複数回答（3つまで））



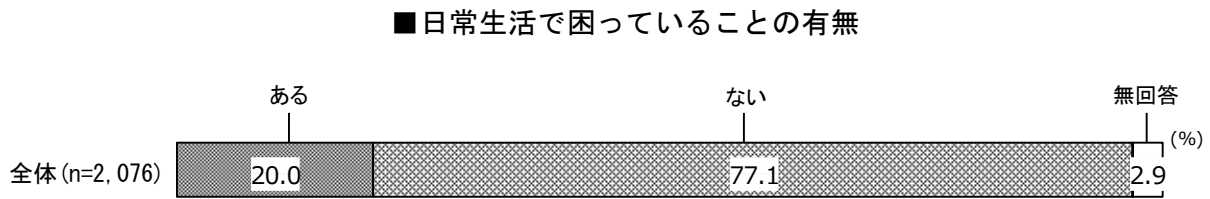
圏域別にみると、北東部圏域は「路線バス・はなバスの本数を増やしてほしい」が47.3%と多くなっている。

■【圏域別】住み続けるために必要な交通手段や移動手段（複数回答（3つまで））

	路線バス・はなバスの本数を増やしてほしい	バス停に、屋根をつけたりベンチを置いてほしい	通院などで気軽に使える送迎サービスがあるとよい	バス停がもっと家の近くにあるとよい	バスの乗り降りをもっと楽にできるようにしてほしい	まちなかで車椅子、電動カートなどを貸出してほしい	その他	特にない	無回答
全体 (n=2,076)	40.1	23.4	15.2	14.5	6.1	2.0	6.1	31.1	4.6
中部圏域 (n=520)	38.3	24.0	17.3	15.8	5.6	2.3	6.5	30.2	4.6
南部圏域 (n=533)	34.1	21.2	14.8	16.9	5.8	1.5	5.6	32.3	4.9
西部圏域 (n=549)	41.3	25.9	15.5	10.7	6.7	2.4	5.6	31.7	3.8
北東部圏域 (n=463)	47.3	22.2	12.7	14.9	6.3	1.7	6.7	30.9	4.5
無回答 (n=11)	45.5	18.2	18.2	9.1	-	-	-	-	36.4

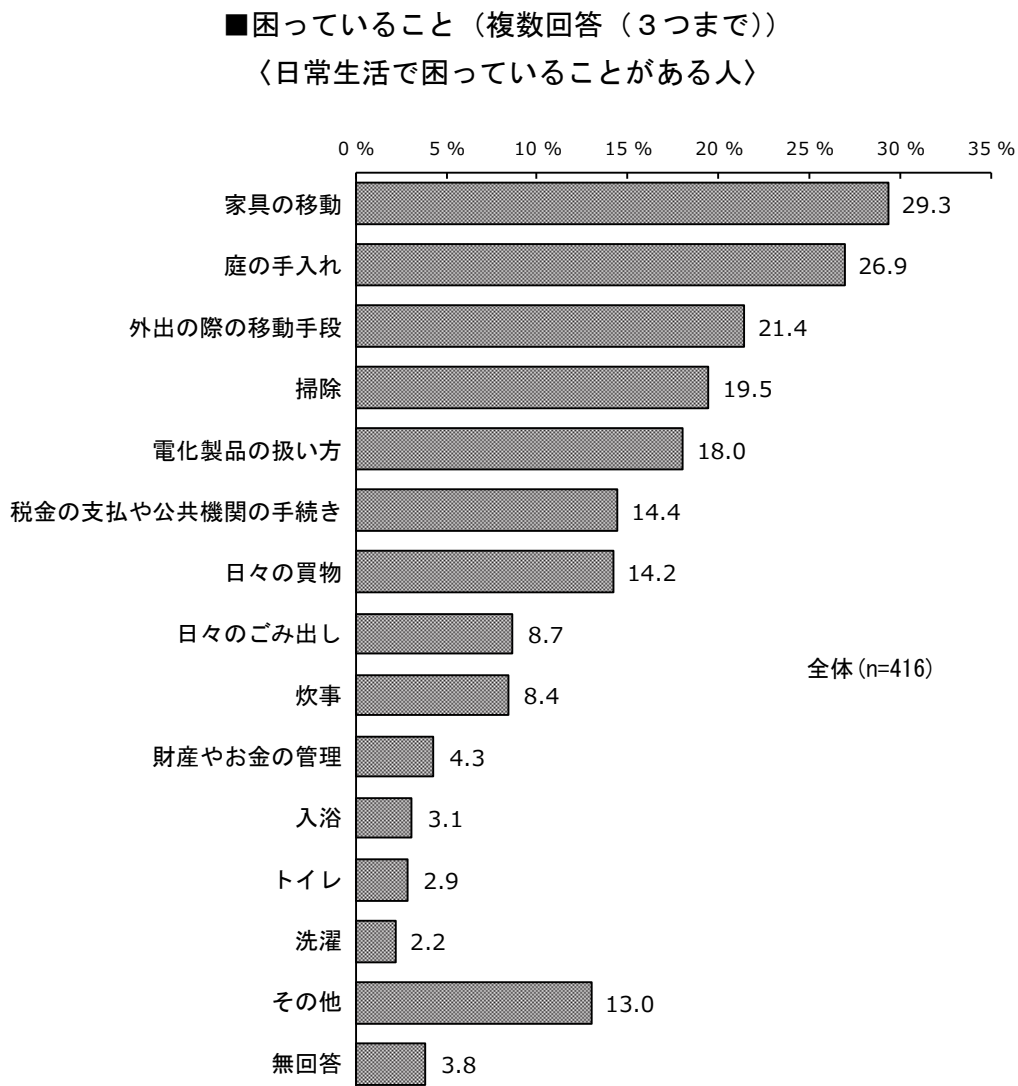
④ 日常生活で困っていることの有無（問10）

日常生活で困っていることの有無は、「ある」が20.0%、「ない」が77.1%となっている。



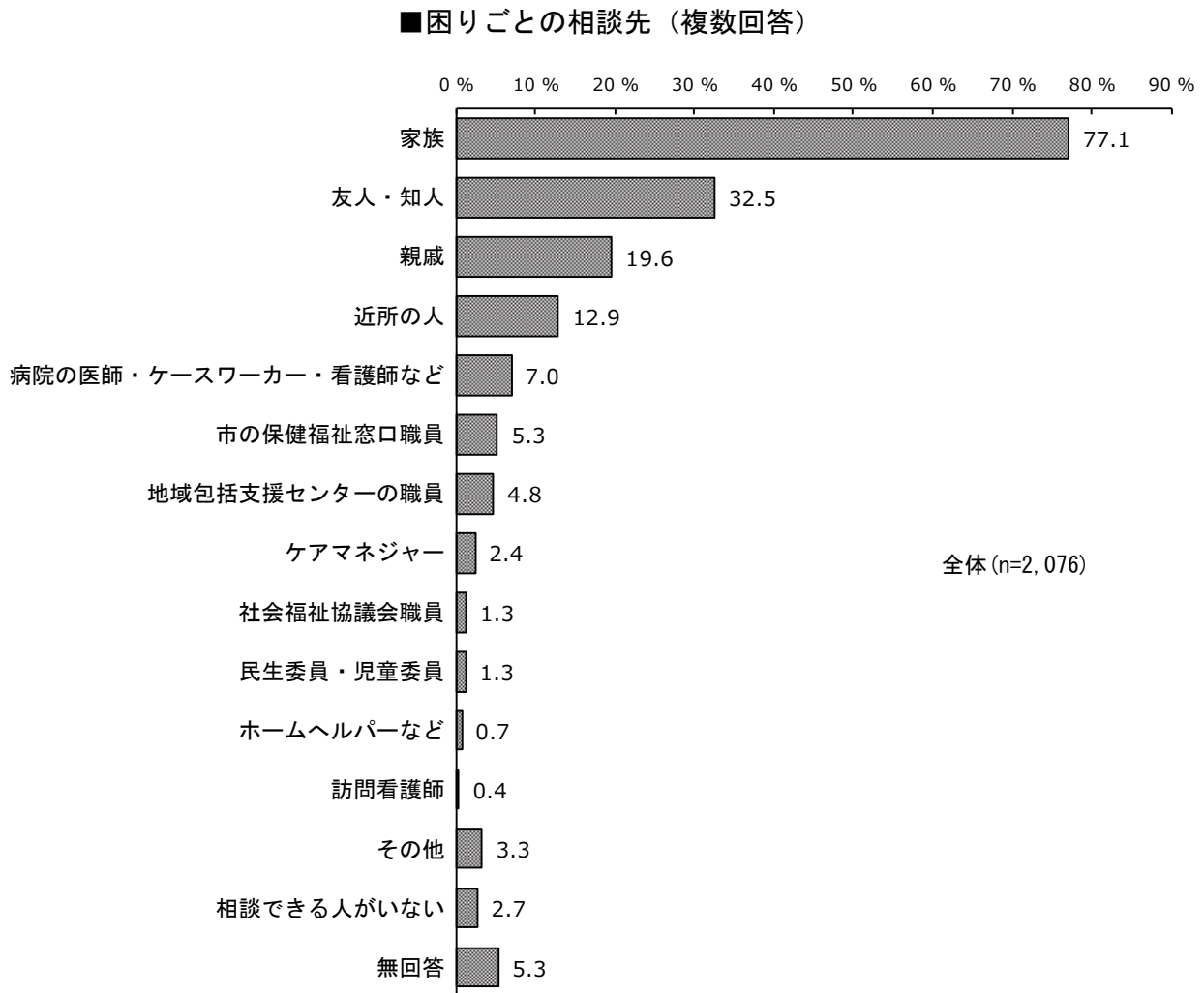
⑤ 困っていること（問10付問）

困りごとがあった人（問10で「ある」と回答した人）の日常生活での困りごとの内容は、「家具の移動」（29.3%）が最も多く、「庭の手入れ」（26.9%）、「外出の際の移動手段」（21.4%）と続いている。



⑥ 困りごとの相談先（問11）

困りごとの相談先は、「家族」（77.1%）が最も多く、「友人・知人」（32.5%）、「親戚」（19.6%）と続いている。



平成25年度調査と比較すると、「友人・知人」「家族」はそれぞれ9.8ポイント、8.5ポイント増加し、「市の保健福祉窓口職員」「地域包括支援センターの職員」はそれぞれ21.9ポイント、6.5ポイント減少している。

■ 【前回比較】 困りごとの相談先（複数回答）

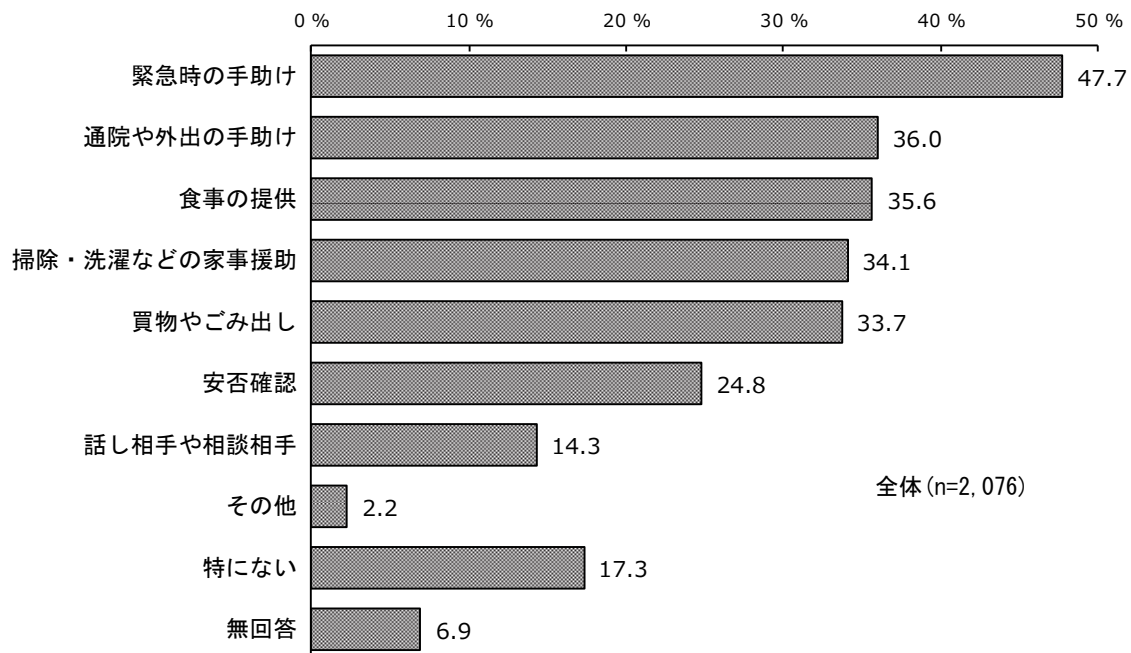
	家族	友人・知人	親戚	近所の人	病院の医師・ケースワーカー・看護師など	市の保健福祉窓口職員	地域包括支援センターの職員	ケアマネジャー	社会福祉協議会職員	民生委員・児童委員	ホームヘルパーなど	訪問看護師	その他	相談できる人がいない	無回答
平成28年度調査 (n=2,076)	77.1	32.5	19.6	12.9	7.0	5.3	4.8	2.4	1.3	1.3	0.7	0.4	3.3	2.7	5.3
平成25年度調査 (n=2,039)	68.6	22.7	21.8	8.6	8.4	27.2	11.3	5.3	4.4	4.4	1.0	0.6	4.9	2.8	2.9

(%)

⑦ 不自由な状態になったときに望む生活支援サービス（問 12）

不自由な状態になったときに望む生活支援サービスは、「緊急時の手助け」（47.7%）が最も多く、「通院や外出の手助け」（36.0%）、「食事の提供」（35.6%）と続いている。

■ 不自由な状態になったときに望む生活支援サービス（複数回答）



性・年齢別にみると、全体と比べて女性の65～74歳は「買物やごみ出し」（40.8%）、「食事の提供」（42.0%）、「通院や外出の手助け」（43.8%）、「緊急時の手助け」（58.0%）が多く、「特にない」（10.2%）が少なくなっている。

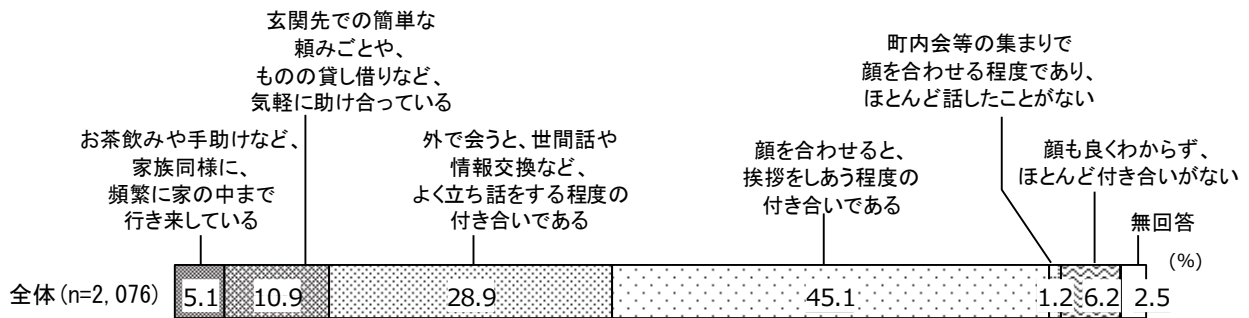
■ 【性・年齢別】 不自由な状態になったときに望む生活支援サービス（複数回答）

		緊急時の手助け	通院や外出の手助け	食事の提供	掃除・洗濯などの家事援助	買物やごみ出し	安否確認	話し相手や相談相手	その他	特にない	無回答
全体	(n=2,076)	47.7	36.0	35.6	34.1	33.7	24.8	14.3	2.2	17.3	6.9
男性	男性計 (n=942)	44.3	32.3	34.8	33.2	30.7	24.2	14.4	2.4	20.3	6.2
	65～74歳 (n=515)	45.6	33.0	36.5	35.1	32.0	24.1	16.1	3.1	21.0	4.1
	75～84歳 (n=354)	43.2	32.5	33.3	32.8	29.9	24.9	12.1	1.7	18.9	8.8
	85歳以上 (n=55)	38.2	27.3	29.1	18.2	27.3	20.0	14.5	1.8	21.8	9.1
	無回答 (n=18)	44.4	22.2	33.3	33.3	16.7	27.8	11.1	-	22.2	5.6
女性	女性計 (n=1,106)	51.3	39.1	36.6	35.2	36.4	25.7	14.1	2.1	14.9	7.1
	65～74歳 (n=605)	58.0	43.8	42.0	38.7	40.8	27.8	17.5	1.7	10.2	6.9
	75～84歳 (n=418)	43.3	34.4	31.8	32.3	33.5	23.2	10.8	3.1	19.6	6.7
	85歳以上 (n=70)	42.9	28.6	21.4	22.9	20.0	25.7	4.3	-	25.7	8.6
	無回答 (n=13)	38.5	23.1	23.1	30.8	15.4	7.7	15.4	-	23.1	15.4

⑧ 近所づきあいの程度（問13）

近所づきあいの程度は、「顔を合わせると、挨拶をしあう程度の付き合いである」（45.1%）が最も多く、「外で会うと、世間話や情報交換など、よく立ち話をする程度の付き合いである」（28.9%）、「玄関先での簡単な頼みごとや、ものの貸し借りなど、気軽に助け合っている」（10.9%）と続いている。

■近所づきあいの程度

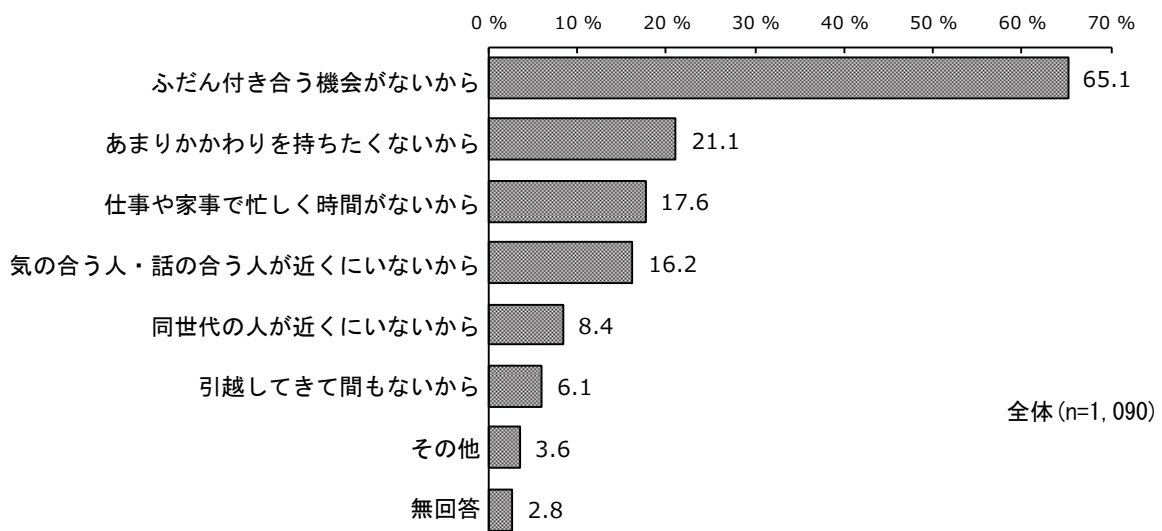


⑨ あまり近所づきあいがいない理由（問13付問）

あまり近所づきあいがいない人（問13で「顔を合わせると、挨拶をしあう程度の付き合いである」「町内会等の集まりで顔を合わせる程度であり、ほとんど話したことがない」「顔も良くわからず、ほとんど付き合いがない」と回答した人）の付き合いのない理由は、「ふだん付き合う機会がないから」（65.1%）が最も多く、「あまりかかわりを持ちたくないから」（21.1%）、「仕事や家事で忙しく時間がないから」（17.6%）と続いている。

■あまり近所づきあいがいない理由（複数回答）

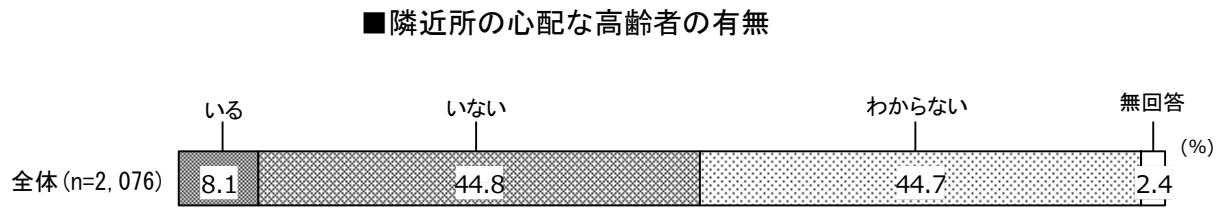
〈あまり近所づきあいがいない人〉



全体 (n=1,090)

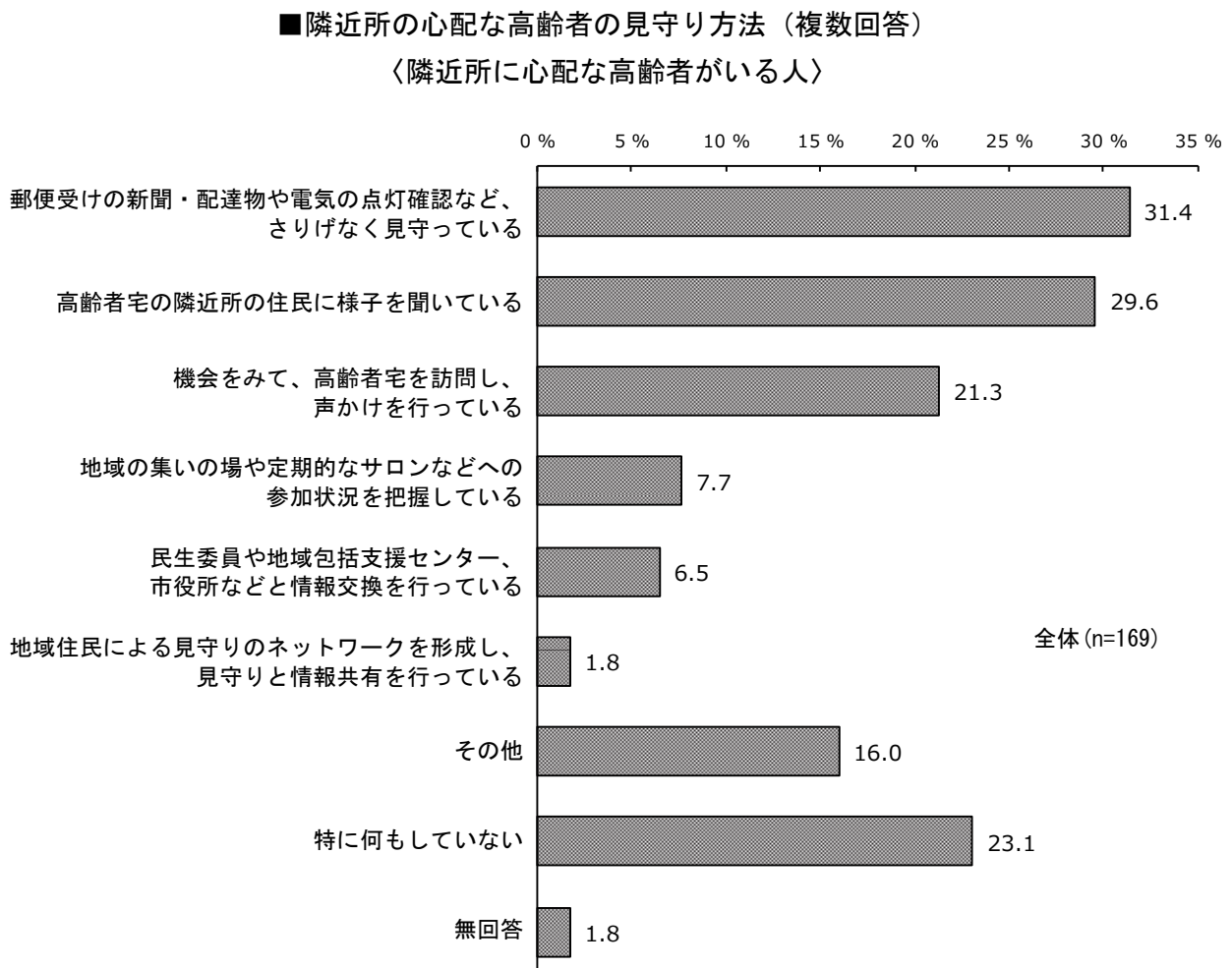
⑩ 隣近所の心配な高齢者の有無（問 14）

隣近所の心配な高齢者の有無は、「いる」が 8.1%、「いない」が 44.8%、「わからない」が 44.7%となっている。



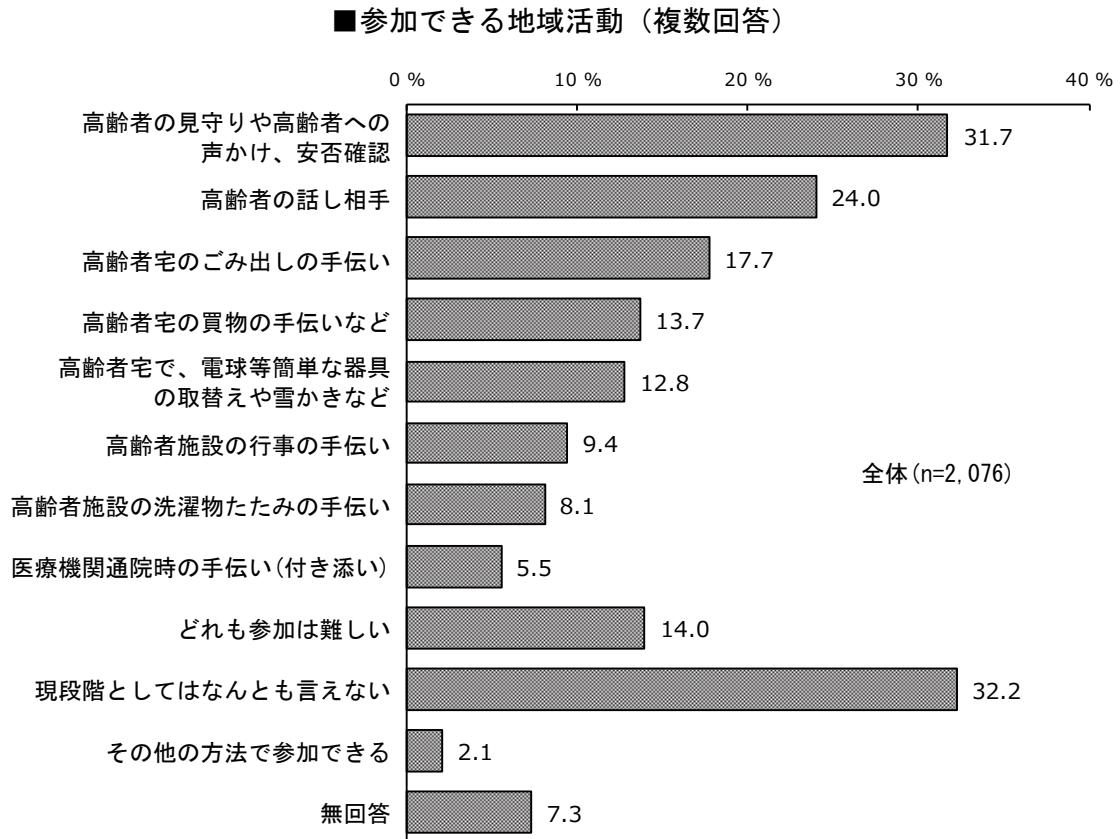
⑪ 隣近所の心配な高齢者の見守り方法（問 14 付問）

隣近所に心配な高齢者がいる人（問 14 で「いる」と回答した人）の高齢者の見守り方法は、「郵便受けの新聞・配達物や電気の点灯確認など、さりげなく見守っている」（31.4%）が最も多く、「高齢者宅の隣近所の住民に様子を聞いている」（29.6%）、「特に何もしていない」（23.1%）と続いている。



⑫ 参加できる地域活動（問15）

参加できる地域活動は、「現段階としてはなんとも言えない」（32.2%）と「高齢者の見守りや高齢者への声かけ、安否確認」（31.7%）が多く、次いで「高齢者の話し相手」（24.0%）が多くなっており、「どれも参加は難しい」は14.0%となっている。



1. 高齢者一般調査

性・年齢別にみると、「高齢者の見守りや高齢者への声かけ、安否確認」が女性の65～74歳で42.6%と多くなっており、「高齢者宅で、電球等簡単な器具の取替えや雪かきなど」が、男性の65～74歳（25.8%）と男性の75～84歳（22.3%）で多くなっている。

■【性・年齢別】参加できる地域活動（複数回答）

		(%)												
		の高齢者の見守りや安否確認	高齢者の話し相手	い高齢者宅のごみ出しの手伝い	ど高齢者宅の買物の手伝い	器具の高齢者宅で、電球等簡単な取替えや雪かきなど	高齢者施設の行事の手伝い	の高齢者施設の洗濯物たたみ	（付き添い）医療機関通院時の手伝い	どれも参加は難しい	えない	現段階としてはなんとも	その他の方法で参加できる	無回答
全体	(n=2,076)	31.7	24.0	17.7	13.7	12.8	9.4	8.1	5.5	14.0	32.2	2.1	7.3	
男性	男性計 (n=942)	28.2	18.2	14.9	11.4	22.9	7.2	2.0	5.6	14.0	37.3	2.1	5.1	
	65～74歳 (n=515)	28.3	16.1	15.9	14.6	25.8	7.4	1.7	6.2	11.5	40.8	2.3	4.1	
	75～84歳 (n=354)	29.4	21.5	14.4	7.9	22.3	7.9	2.8	5.9	14.7	33.9	1.7	5.6	
	85歳以上 (n=55)	23.6	20.0	5.5	3.6	5.5	1.8	-	-	27.3	27.3	3.6	10.9	
	無回答 (n=18)	16.7	5.6	22.2	11.1	5.6	5.6	-	-	33.3	33.3	-	5.6	
女性	女性計 (n=1,106)	35.4	29.0	20.3	15.9	4.2	11.4	13.4	5.5	13.9	27.9	2.2	8.9	
	65～74歳 (n=605)	42.6	32.2	24.1	20.3	6.3	15.4	17.2	8.3	9.4	27.9	2.1	5.3	
	75～84歳 (n=418)	28.5	27.0	17.0	11.5	1.7	6.5	9.8	2.6	17.0	29.2	2.4	11.0	
	85歳以上 (n=70)	11.4	12.9	4.3	4.3	1.4	2.9	1.4	-	35.7	22.9	1.4	24.3	
	無回答 (n=13)	46.2	30.8	38.5	15.4	7.7	30.8	15.4	-	7.7	15.4	-	23.1	

平成25年度調査と比較すると、「現段階としてはなんとも言えない」は6.9ポイント増加し、「高齢者の話し相手」は7.2ポイント減少している。

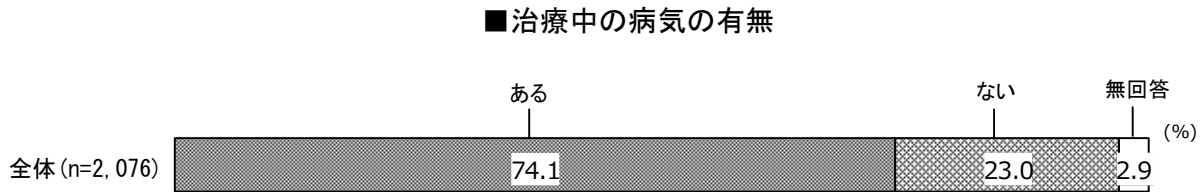
■【前回比較】参加できる地域活動（複数回答）

		(%)												
		の高齢者の見守りや安否確認	高齢者の話し相手	い高齢者宅のごみ出しの手伝い	ど高齢者宅の買物の手伝い	器具の高齢者宅で、電球等簡単な取替えや雪かきなど	高齢者施設の行事の手伝い	の高齢者施設の洗濯物たたみ	（付き添い）医療機関通院時の手伝い	どれも参加は難しい	えない	現段階としてはなんとも	その他の方法で参加できる	無回答
平成28年度調査	(n=2,076)	31.7	24.0	17.7	13.7	12.8	9.4	8.1	5.5	14.0	32.2	2.1	7.3	
平成25年度調査	(n=2,039)	34.0	31.2	18.7	14.9	13.9	12.4	10.7	7.2	17.8	25.3	4.3	4.5	

(3) 医療の状況

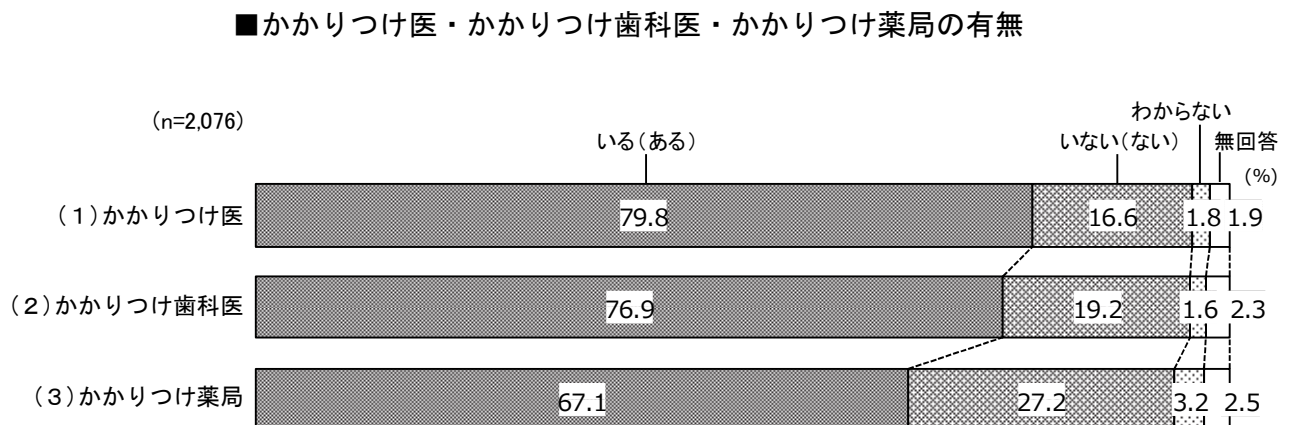
① 治療中の病気の有無 (問 16)

治療中の病気の有無は、「ある」が74.1%、「ない」が23.0%となっている。



② かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の有無 (問 17)

かかりつけ医が「いる」は79.8%、かかりつけ歯科医が「いる」は76.9%、かかりつけ薬局が「ある」は67.1%となっている。



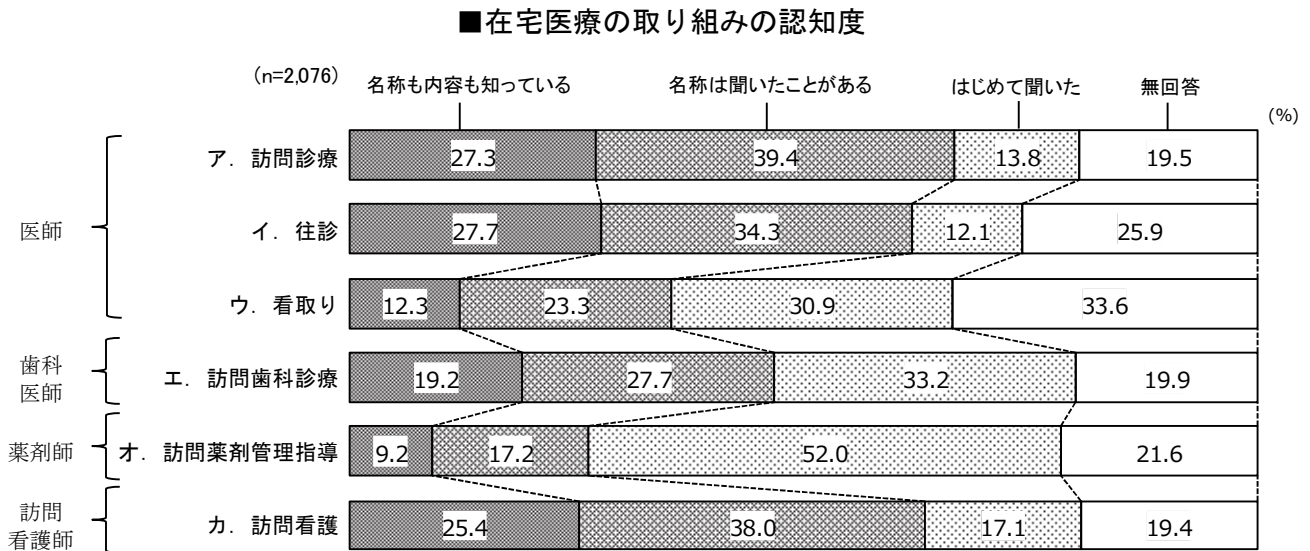
平成25年度調査と比較すると、かかりつけ医とかかりつけ歯科医は大きな変化はみられず、かかりつけ薬局は「ある」が6.4ポイント増加し、「ない」が4.2ポイント減少している。

■【前回比較】かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の有無

		(ある)	(ない)	わからない	無回答
かかりつけ医	平成28年度調査 (n=2,076)	79.8	16.6	1.8	1.9
	平成25年度調査 (n=2,039)	80.4	15.6	1.7	2.3
かかりつけ歯科医	平成28年度調査 (n=2,076)	76.9	19.2	1.6	2.3
	平成25年度調査 (n=2,039)	75.8	18.9	1.4	3.9
かかりつけ薬局	平成28年度調査 (n=2,076)	67.1	27.2	3.2	2.5
	平成25年度調査 (n=2,039)	60.7	31.4	3.2	4.8

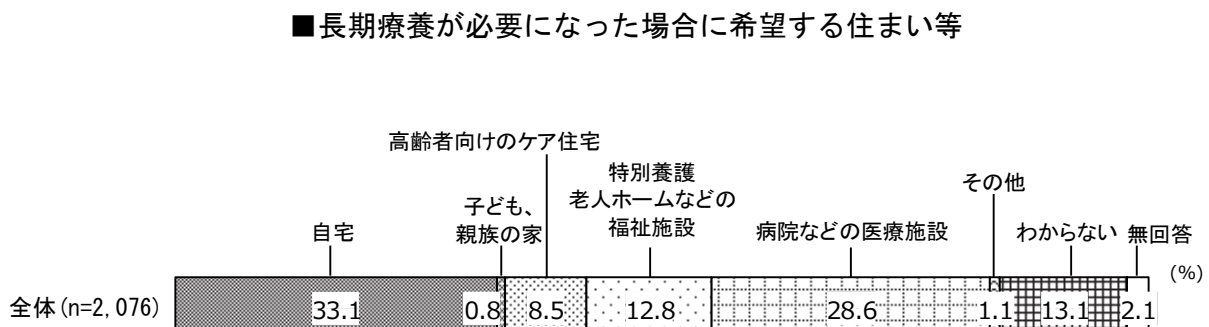
③ 在宅医療の取り組みの認知度 (問 18)

在宅医療の取り組みの認知度は、医師の「訪問診療」「往診」や訪問看護師の「訪問看護」は「名称も内容も知っている」と「名称は聞いたことがある」の合計が6割台と多くなっているが、薬剤師の「訪問薬剤管理指導」は「はじめて聞いた」が約半数を占めている。



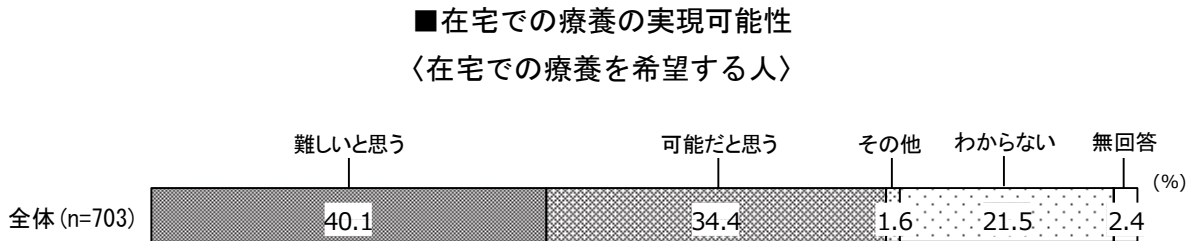
④ 長期療養が必要になった場合に希望する住まい等 (問 19)

長期療養が必要になった場合に希望する住まい等は、「自宅」(33.1%) が最も多く、「病院などの医療施設」(28.6%)、「特別養護老人ホームなどの福祉施設」(12.8%)と続いている。



⑤ 在宅での療養の実現可能性（問19付問1）

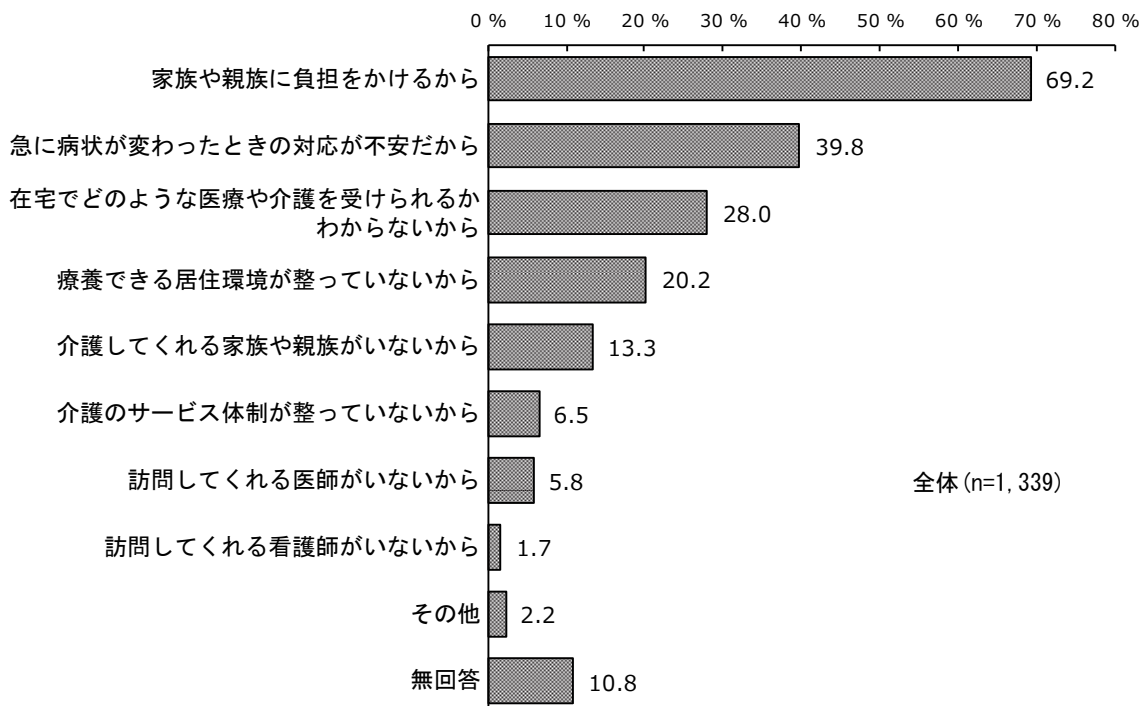
在宅での療養を希望する人（問19で「自宅」「子ども、親族の家」と回答した人）の実現可能性は、「難しいと思う」（40.1%）が最も多く、「可能だと思う」（34.4%）、「わからない」（21.5%）と続いている。



⑥ 在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（問19付問2）

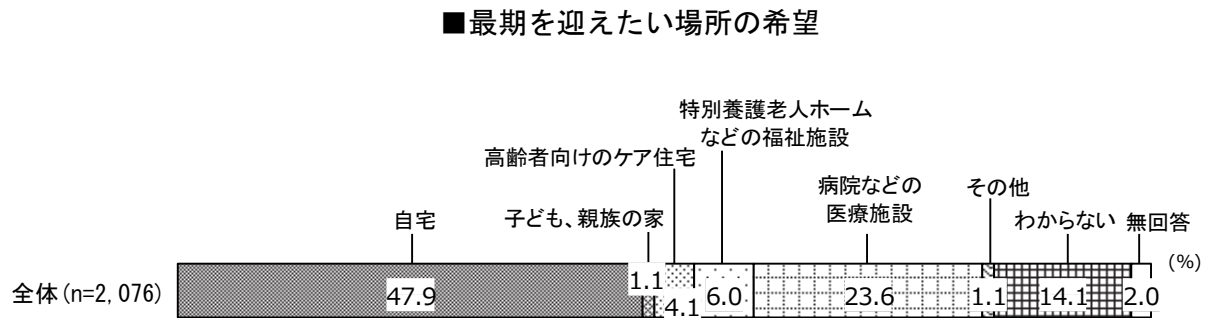
在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う人（問19で「高齢者向けのケア住宅」「特別養護老人ホームなどの福祉施設」「病院などの医療施設」「その他」、問19付問1で「難しいと思う」と回答した人）の理由は、「家族や親族に負担をかけるから」（69.2%）が最も多く、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」（39.8%）、「在宅でどのような医療や介護を受けられるかわからないから」（28.0%）と続いている。

■在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（複数回答（3つまで））
〈在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う人〉



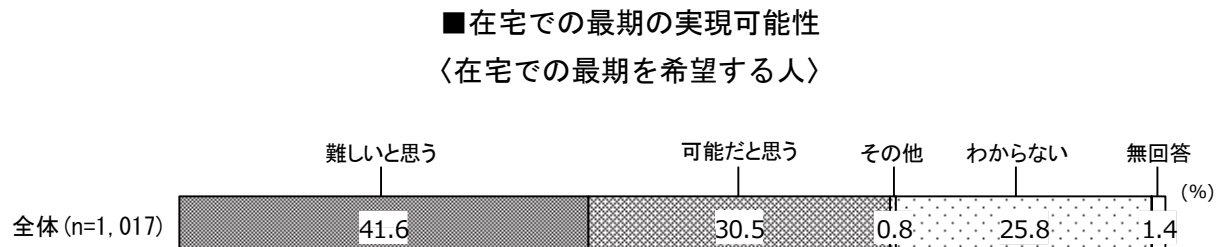
⑦ 最期を迎えたい場所の希望（問 20）

最期を迎えたい場所の希望は、「自宅」（47.9%）が最も多く、「病院などの医療施設」（23.6%）、「わからない」（14.1%）と続いている。



⑧ 在宅での最期の実現可能性（問 20 付問 1）

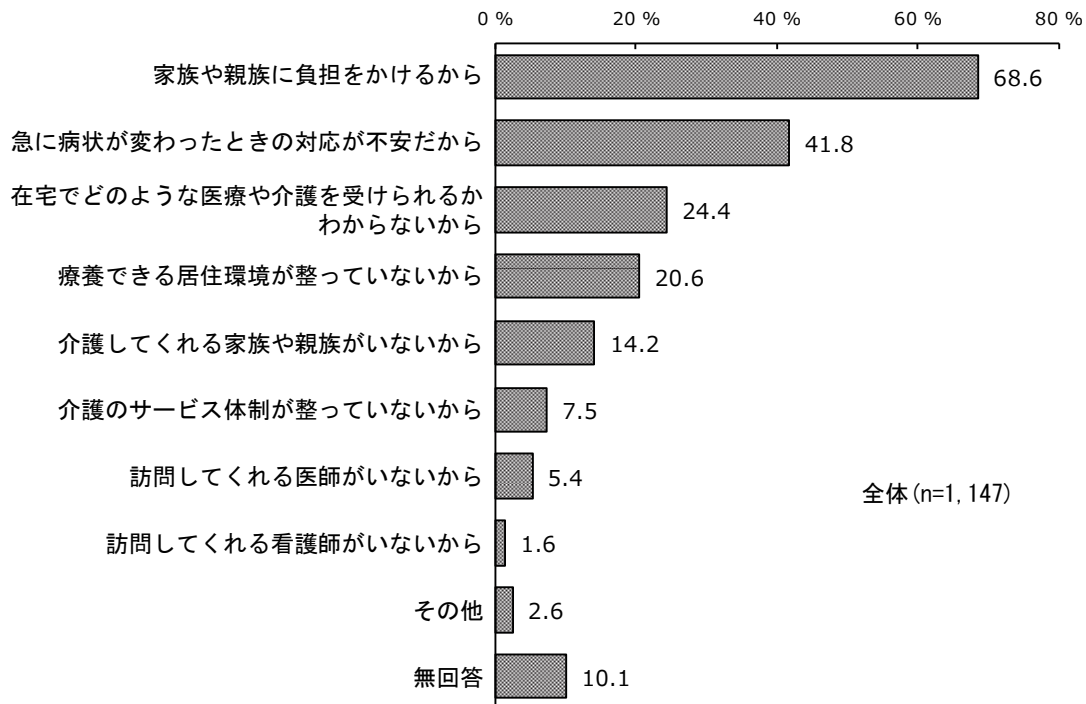
在宅での最期を希望する人（問 20 で「自宅」「子ども、親族の家」と回答した人）の実現可能性は、「難しいと思う」（41.6%）が最も多く、「可能だと思う」（30.5%）、「わからない」（25.8%）と続いている。



⑨ 在宅での最期を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（問20付問2）

在宅での最期を希望しないまたは希望するが難しいと思う人（問20で「高齢者向けのケア住宅」「特別養護老人ホームなどの福祉施設」「病院などの医療施設」「その他」、問20付問1で「難しいと思う」と回答した人）の理由は、「家族や親族に負担をかけるから」（68.6%）が最も多く、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」（41.8%）、「在宅でどのような医療や介護を受けられるかわからないから」（24.4%）と続いている。

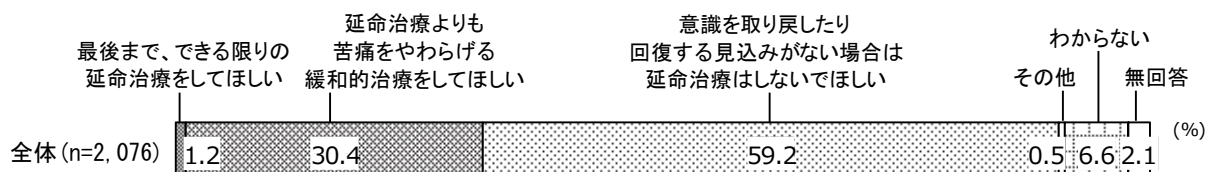
■在宅での最期を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（複数回答（3つまで））
 〈在宅での最期を希望しないまたは希望するが難しいと思う人〉



⑩ 延命治療についての希望（問21）

延命治療についての希望は、「意識を取り戻したり回復する見込みがない場合は延命治療はしないしてほしい」（59.2%）が最も多く、「延命治療よりも苦痛をやわらげる緩和的治療をしてほしい」（30.4%）と続いている。

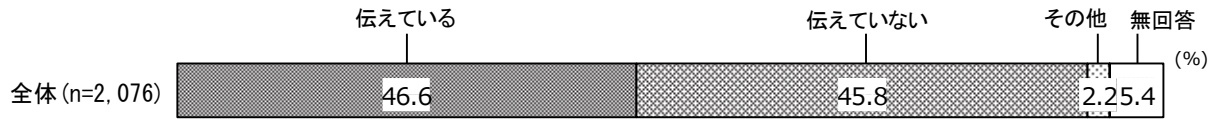
■延命治療についての希望



⑪ 長期療養、終末期、延命治療についての家族等への意向表明の有無（問 22）

長期療養、終末期、延命治療についての家族等への意向表明の有無は、「伝えている」が 46.6%、「伝えていない」が 45.8%となっている。

■長期療養、終末期、延命治療についての家族等への意向表明の有無

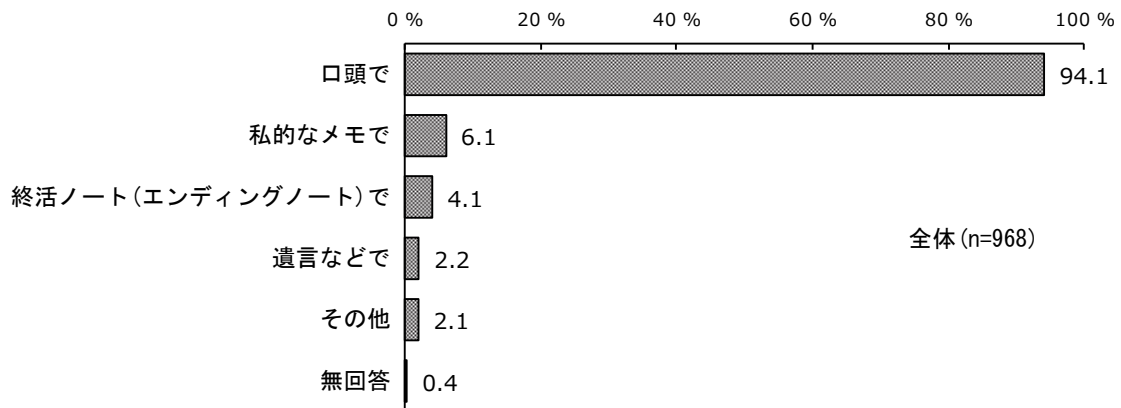


⑫ 長期療養、終末期、延命治療についての意向の伝え方（問 22 付問 1）

長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えている人（問 22 で「伝えている」と回答した人）の伝え方は、「口頭で」が 94.1%と多くなっている。

■長期療養、終末期、延命治療についての意向の伝え方（複数回答）

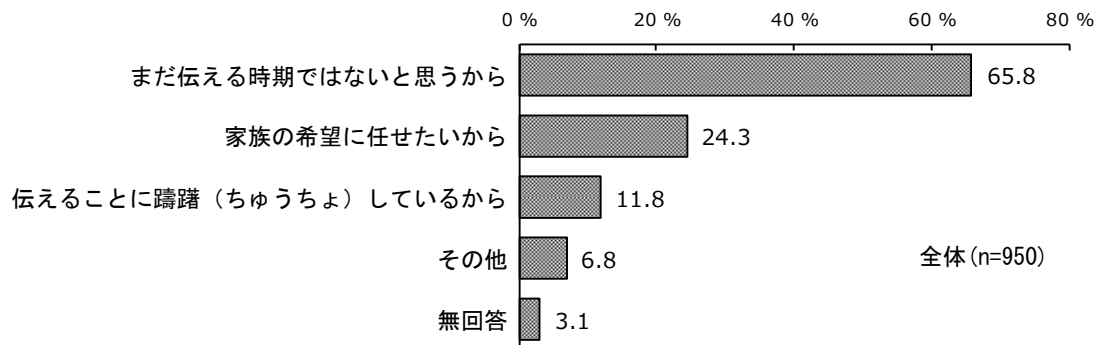
〈長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えている人〉



⑬ 長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない理由（問22付問2）

長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない人（問22で「伝えていない」と回答した人）の理由は、「まだ伝える時期ではないと思うから」（65.8%）が最も多く、「家族の希望に任せたいから」（24.3%）、「伝えることに躊躇しているから」（11.8%）と続いている。

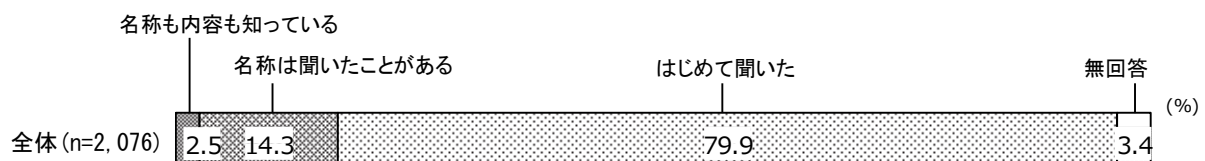
■長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない理由（複数回答）
 〈長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない人〉



⑭ 「在宅療養後方支援病床確保事業」の認知度（問23(1)）

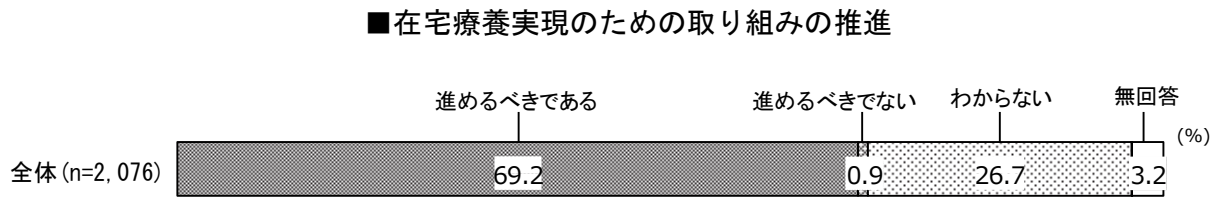
「在宅療養後方支援病床確保事業」の認知度は、「はじめて聞いた」（79.9%）が最も多く、「名称は聞いたことがある」（14.3%）、「名称も内容も知っている」（2.5%）と続いている。

■「在宅療養後方支援病床確保事業」の認知度



⑮ 在宅療養実現のための取り組みの推進（問 23（2））

在宅療養実現のための取り組みの推進は、「進めるべきである」が 69.2%、「進めるべきでない」が 0.9%、「わからない」が 26.7%となっている。



⑯ 在宅療養実現のための取り組みを進めるべきでないと思う理由（問 23 付問）

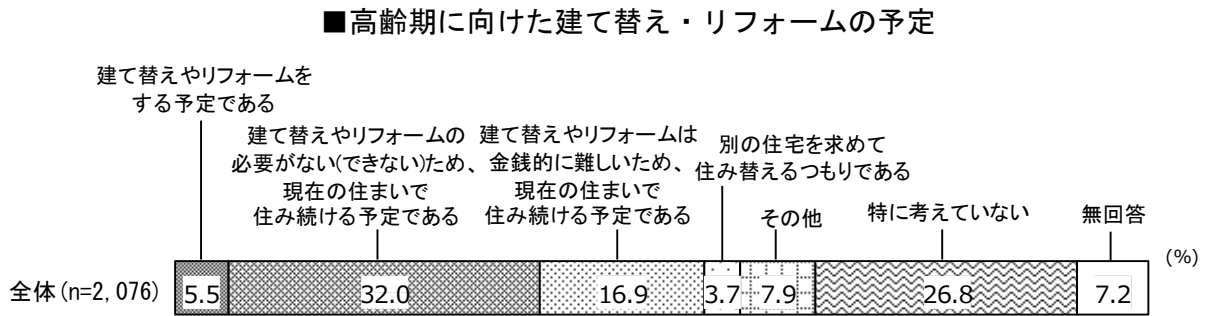
在宅療養実現のための取り組みを進めるべきでないと思う理由を自由記述形式でうかがった。主な意見は、以下のとおりとなっている。

- ・老々介護は無理であるし、子ども達の仕事に支障をきたす。子ども自身、家族の生計を維持しなければならない。そのため、在宅介護の方針には絶対反対である。
- ・私の周りの高齢者は、家族に迷惑をかけたくないので、老人ホームに入ることを望んでいる。
- ・介護してくれる家族がいないため、在宅は無理だから。
- ・家族に負担をかけるから。
- ・在宅療養のスペースはない。
- ・社会はすでに在宅療養を行うことのできる状況ではなくなっていると思う。
- ・ひとり暮らしの家庭がこれから増えて、家族の世話を受けにくくなる。個人の年金の範囲内で特養に入居できるようにしてほしい。
- ・いざという時に速やかに入院できるという制度が整っていればすごく安心できるが、在宅療養より比較的安価な特養などが多くつくられる方がよいと思う。
- ・在宅療養という名前は良いが、本人や家族のことを本当に思っているのではなく、医療費や福祉費の削減目的の意味が大半であると思えるから。
- ・家族がいないなど本人の事情で、お金がある人は、安心だから入院させてもらいたい。一律に進めるべきではない。

(4) これからの住まい方

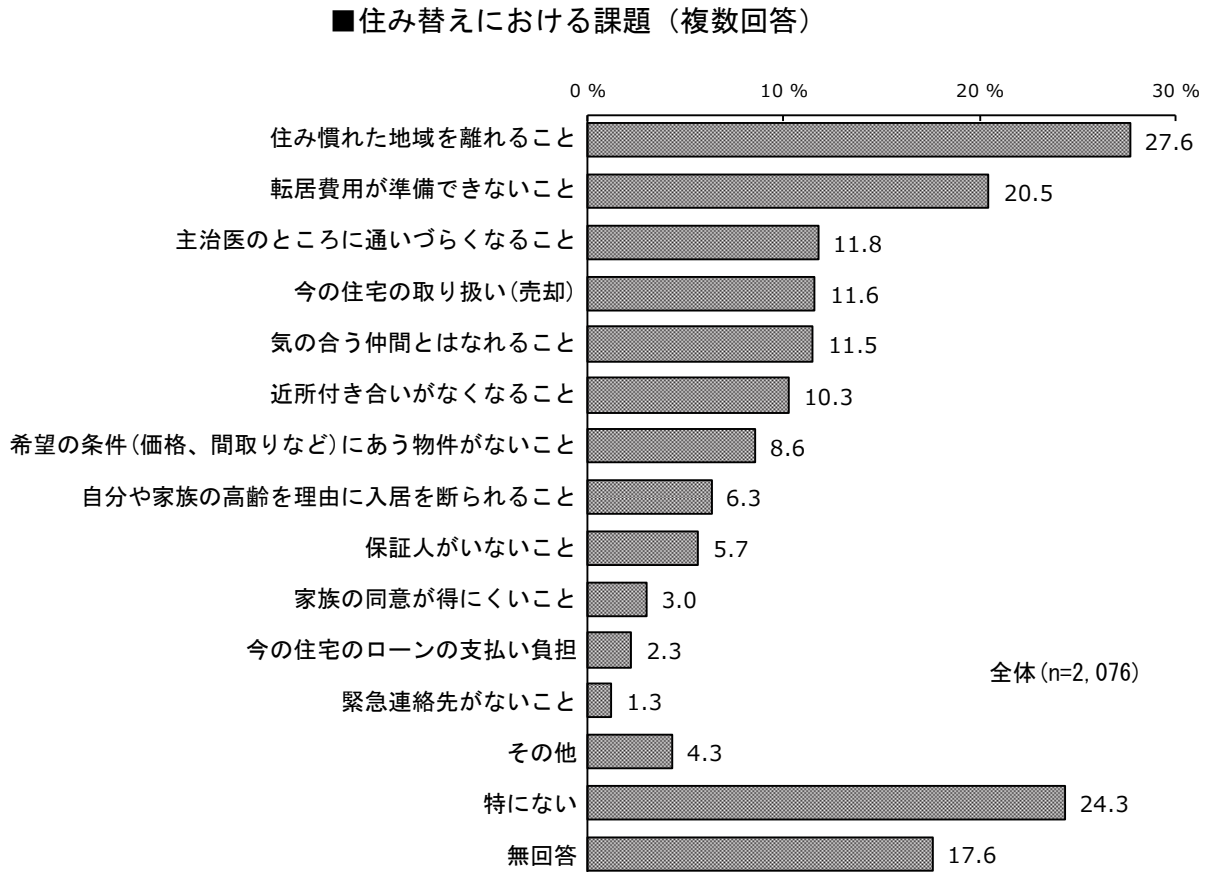
① 高齢期に向けた建て替え・リフォームの予定 (問 24)

高齢期に向けた建て替え・リフォームの予定は、「建て替えやリフォームの必要がない(できない)ため、現在の住まいで住み続ける予定である」(32.0%)が最も多く、「特に考えていない」(26.8%)、「建て替えやリフォームは金銭的に難しいため、現在の住まいで住み続ける予定である」(16.9%)と続いている。



② 住み替えにおける課題 (問 25)

住み替えにおける課題は、「住み慣れた地域を離れること」(27.6%)が最も多く、「特になし」(24.3%)、「転居費用が準備できないこと」(20.5%)と続いている。



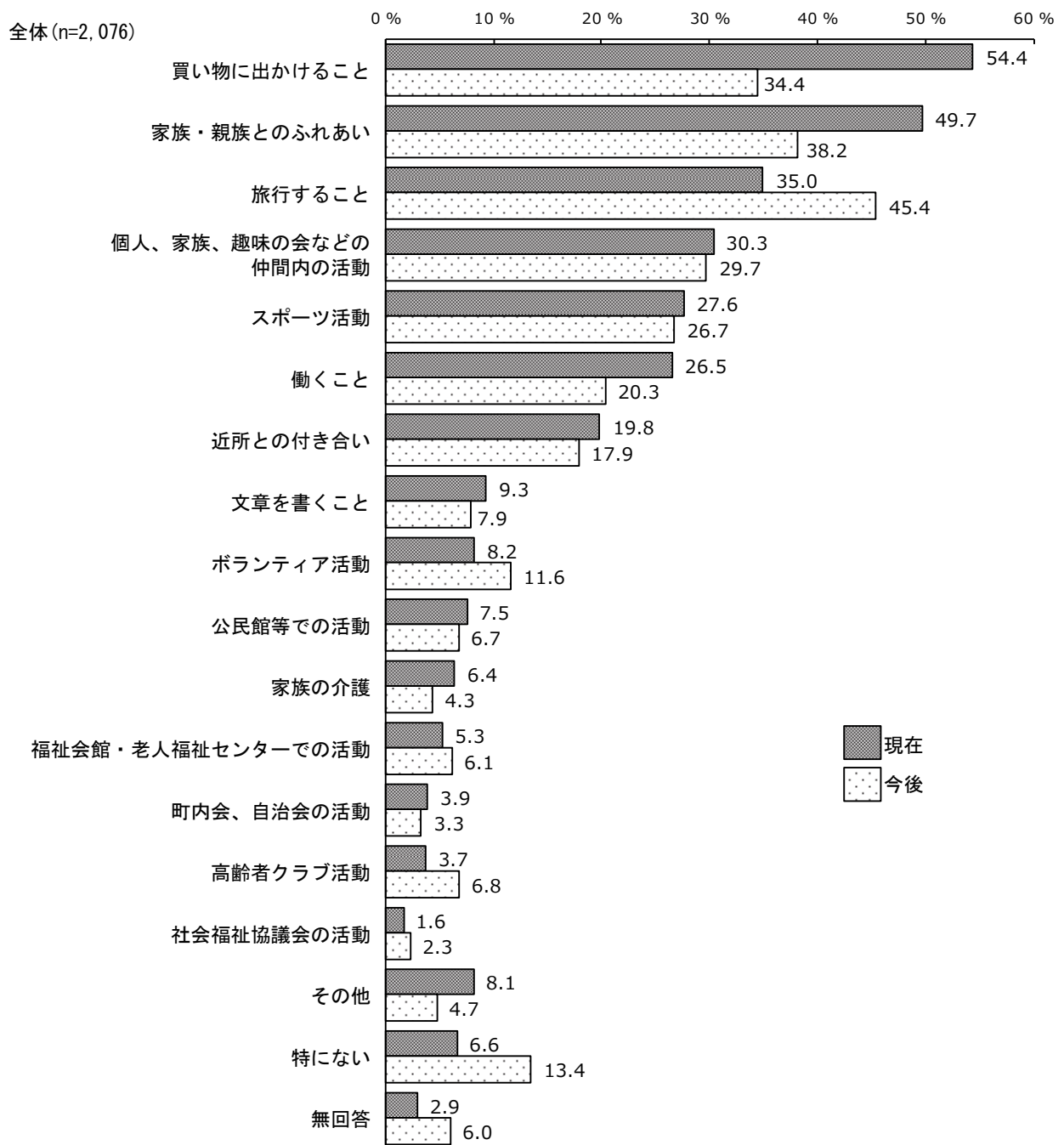
(5) 生きがい

① 継続して行っていること、今後行いたいこと (問 26、問 27)

継続して行っていることは、「買い物に出かけること」(54.4%)が最も多く、「家族・親族とのふれあい」(49.7%)、「旅行すること」(35.0%)と続いている。

今後行いたいことは、「旅行すること」(45.4%)が最も多く、「家族・親族とのふれあい」(38.2%)、「買い物に出かけること」(34.4%)と続いている。

■ 継続して行っていること、今後行いたいこと (複数回答)



第2章 各調査の結果

継続して行っていることを平成25年度調査と比較すると、「家族・親族とのふれあい」が5.4ポイント増加している。

■【前回比較】継続して行っていること（複数回答）

	買い物に出かける	家族・親族とのふれあい	旅行すること	個人、家族、趣味の会などの仲間内の活動	スポーツ活動	働くこと	近所との付き合い	文章を書くこと	ボランティア活動	(%)
平成28年度調査 (n=2,076)	54.4	49.7	35.0	30.3	27.6	26.5	19.8	9.3	8.2	
平成25年度調査 (n=2,039)	53.6	44.3	35.4	28.9	23.9	25.0	21.2	8.8	7.0	
	公民館等での活動	家族の介護	福祉センター・老人活動	町内会、自治会の活動	高齢者クラブ活動	社会福祉協議会の活動	その他	特になし	無回答	(%)
平成28年度調査 (n=2,076)	7.5	6.4	5.3	3.9	3.7	1.6	8.1	6.6	2.9	
平成25年度調査 (n=2,039)	8.4	6.2	6.9	3.9	4.8	1.6	7.0	6.8	1.5	

今後行いたいことを平成25年度調査と比較すると、「家族・親族とのふれあい」が5.6ポイント、スポーツ活動が4.2ポイント、「個人、家族、趣味の会などの仲間内の活動」が4.0ポイント増加している。

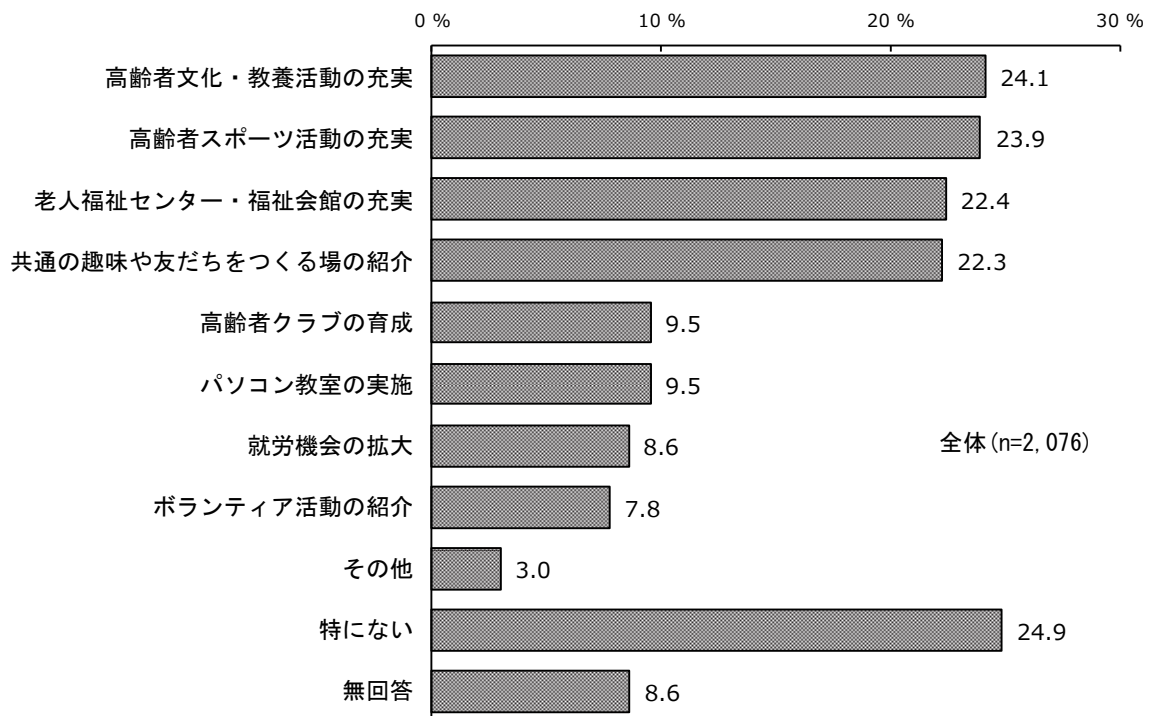
■【前回比較】今後行いたいこと（複数回答）

	旅行すること	家族・親族とのふれあい	買い物に出かける	個人、家族、趣味の会などの仲間内の活動	スポーツ活動	働くこと	近所との付き合い	ボランティア活動	文章を書くこと	(%)
平成28年度調査 (n=2,076)	45.4	38.2	34.4	29.7	26.7	20.3	17.9	11.6	7.9	
平成25年度調査 (n=2,039)	45.0	32.6	32.9	25.7	22.5	20.2	16.7	9.9	7.6	
	高齢者クラブ活動	公民館等での活動	福祉センター・老人活動	家族の介護	町内会、自治会の活動	社会福祉協議会の活動	その他	特になし	無回答	(%)
平成28年度調査 (n=2,076)	6.8	6.7	6.1	4.3	3.3	2.3	4.7	13.4	6.0	
平成25年度調査 (n=2,039)	7.7	7.0	7.1	3.9	3.8	2.2	4.1	14.1	4.6	

② 高齢者の生きがいがづくりで市に力を入れてほしいこと（問 28）

高齢者の生きがいがづくりで市に力を入れてほしいことは、「特にない」(24.9%)が最も多く、「高齢者文化・教養活動の充実」(24.1%)、「高齢者スポーツ活動の充実」(23.9%)と続いている。

■ 高齢者の生きがいがづくりで市に力を入れてほしいこと（複数回答（3つまで））

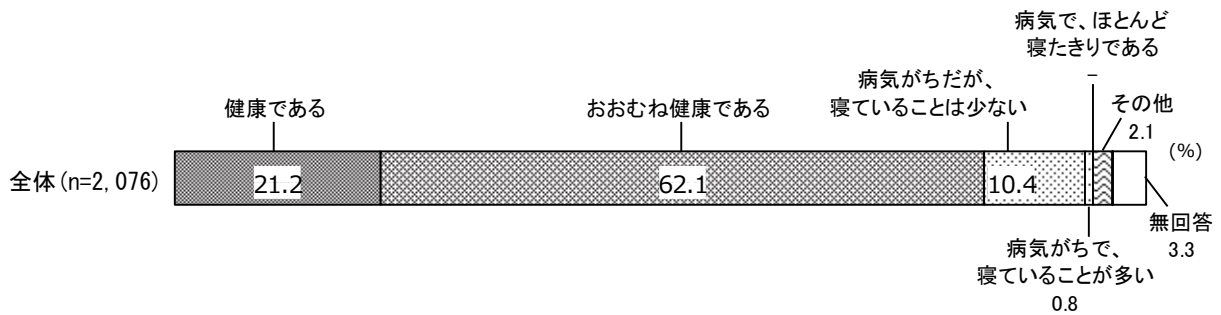


(6) 健康管理

① 主観的健康感 (問 29)

主観的健康感は、「おおむね健康である」(62.1%)が最も多く、「健康である」(21.2%)、「病気がちだが、寝ていることは少ない」(10.4%)と続いている。

■主観的健康感



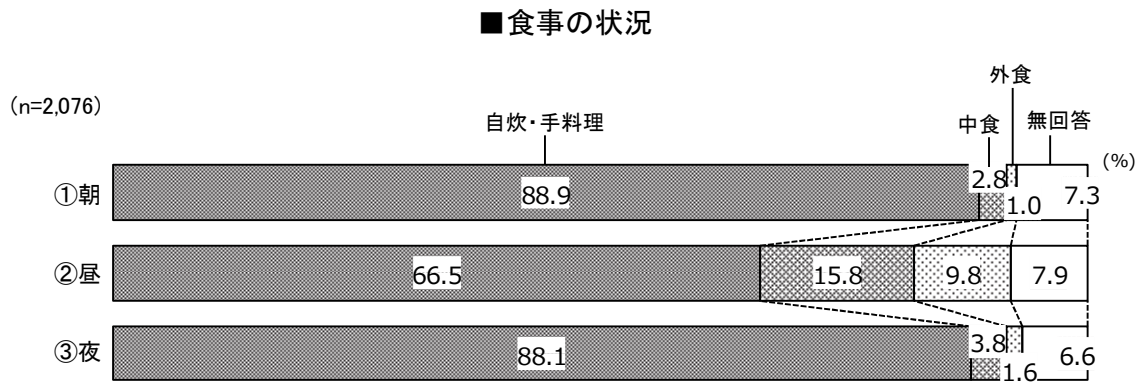
性・年齢別にみると、いずれの性・年齢においても“健康”（「健康である」「おおむね健康である」の合計）は8割から8割台半ばとなっているが、「健康である」は女性の85歳以上で10.0%、女性の75～84歳で15.6%と少なくなっている。

■【性・年齢別】主観的健康感

		(%)						
		健康である	おおむね健康である	病気がちだが、寝ている	病気がちで、寝ている	病気で、ほとんど寝たきりである	その他	無回答
全	体 (n=2,076)	21.2	62.1	10.4	0.8	-	2.1	3.3
男	性 計 (n=942)	22.6	61.0	10.3	0.3	-	2.3	3.4
	65～74歳 (n=515)	25.6	60.6	8.0	0.4	-	2.5	2.9
	75～84歳 (n=354)	18.6	61.3	13.8	0.3	-	2.3	3.7
	85歳以上 (n=55)	16.4	67.3	9.1	-	-	1.8	5.5
	無回答 (n=18)	33.3	50.0	11.1	-	-	-	5.6
女	性 計 (n=1,106)	20.3	63.6	10.3	1.0	-	2.0	2.9
	65～74歳 (n=605)	24.6	61.7	9.4	0.3	-	1.8	2.1
	75～84歳 (n=418)	15.6	65.1	12.4	1.4	-	2.2	3.3
	85歳以上 (n=70)	10.0	71.4	7.1	2.9	-	2.9	5.7
	無回答 (n=13)	23.1	61.5	-	7.7	-	-	7.7

② 食事の状況 (問 30)

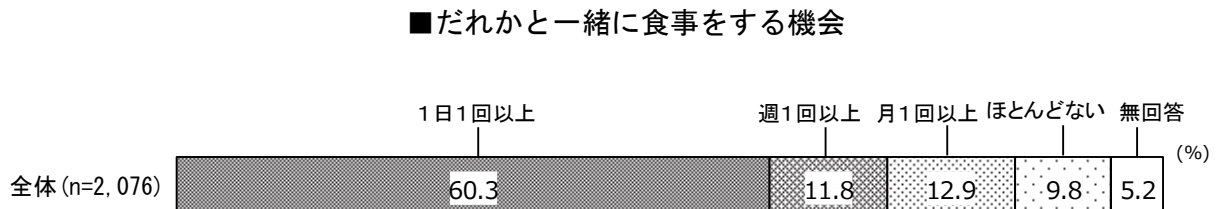
食事の状況は、朝と夜は「自炊・手料理」が9割近くを占めており、昼は「自炊・手料理」が66.5%、「中食」が15.8%、「外食」が9.8%となっている。



※「中食」：持ち帰ってすぐに食べられる総菜やコンビニ弁当などによる食事

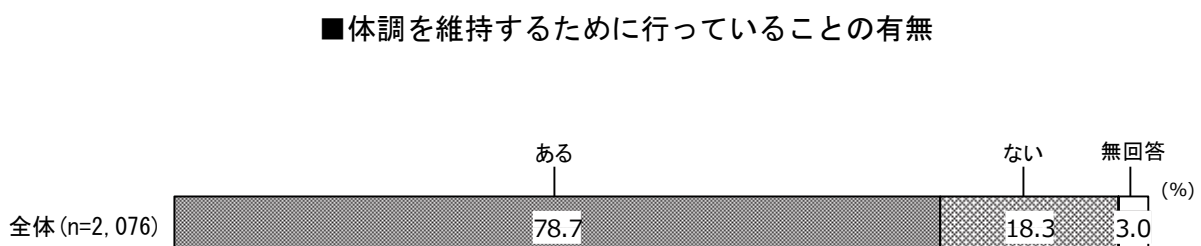
③ だれかと一緒に食事をする機会 (問 31)

だれかと一緒に食事をする機会は、「1日1回以上」(60.3%)が最も多く、「月1回以上」(12.9%)と続いており、「ほとんどない」は9.8%となっている。



④ 体調を維持するために行っていることの有無 (問 32)

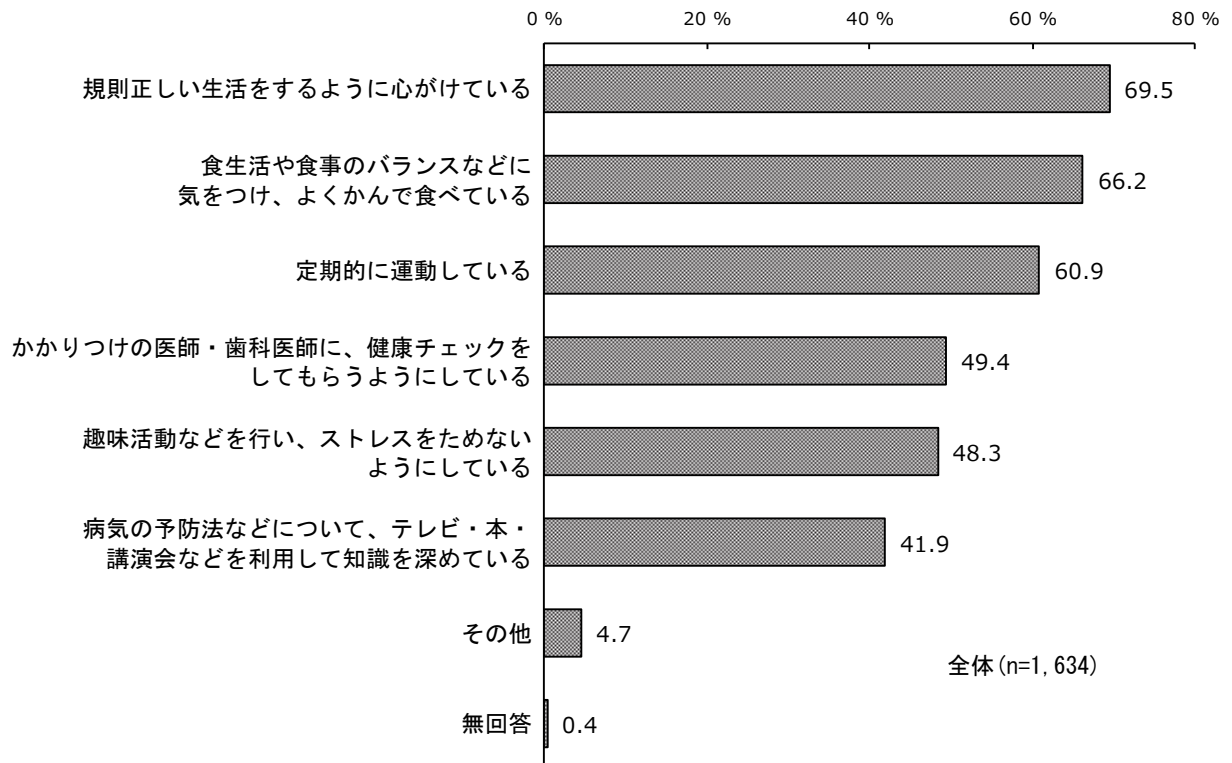
体調を維持するために行っていることの有無は、「ある」が78.7%、「ない」が18.3%となっている。



⑤ 体調を維持するために行っていること（問32付問1）

体調を維持するために行っていることがある人（問32で「ある」と回答した人）の行っていることは、「規則正しい生活をするように心がけている」（69.5%）が最も多く、「食生活や食事のバランスなどに気をつけ、よくかんで食べている」（66.2%）、「定期的に運動している」（60.9%）と続いている。

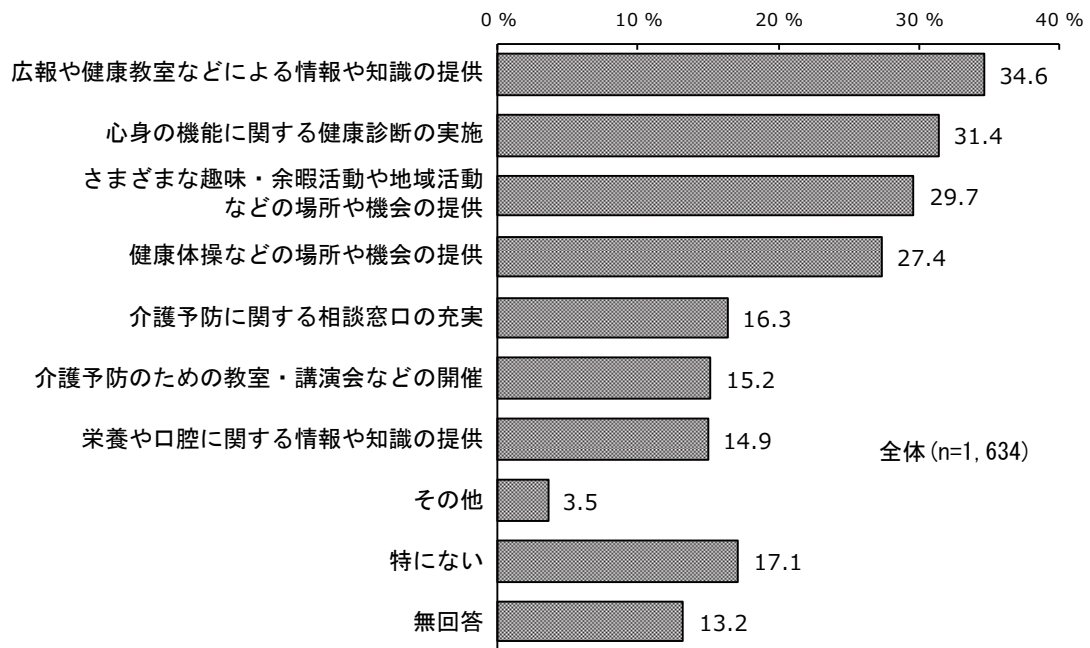
■体調を維持するために行っていること（複数回答）
 〈体調を維持するために行っていることがある人〉



⑥ 健康な生活を送るために市から支援してほしいこと（問 32 付問 2）

体調を維持するために行っていることがある人（問 32 で「ある」と回答した人）の支援してほしいことは、「広報や健康教室などによる情報や知識の提供」（34.6%）が最も多く、「心身の機能に関する健康診断の実施」（31.4%）、「さまざまな趣味・余暇活動や地域活動などの場所や機会の提供」（29.7%）と続いている。

■健康な生活を送るために市から支援してほしいこと（複数回答）
 〈体調を維持するために行っていることがある人〉



第2章 各調査の結果

性・年齢別にみると、「さまざまな趣味・余暇活動や地域活動などの場所や機会の提供」は女性の65～74歳で35.2%、男性の75～84歳で33.2%、男性の65～74歳で31.5%と多くなっており、「健康体操などの場所や機会の提供」は女性の65～74歳で34.8%、女性の75～84歳で31.2%と多くなっている。

■【性・年齢別】健康な生活を送るために市から支援してほしいこと（複数回答） 〈体調を維持するために行っていることがある人〉

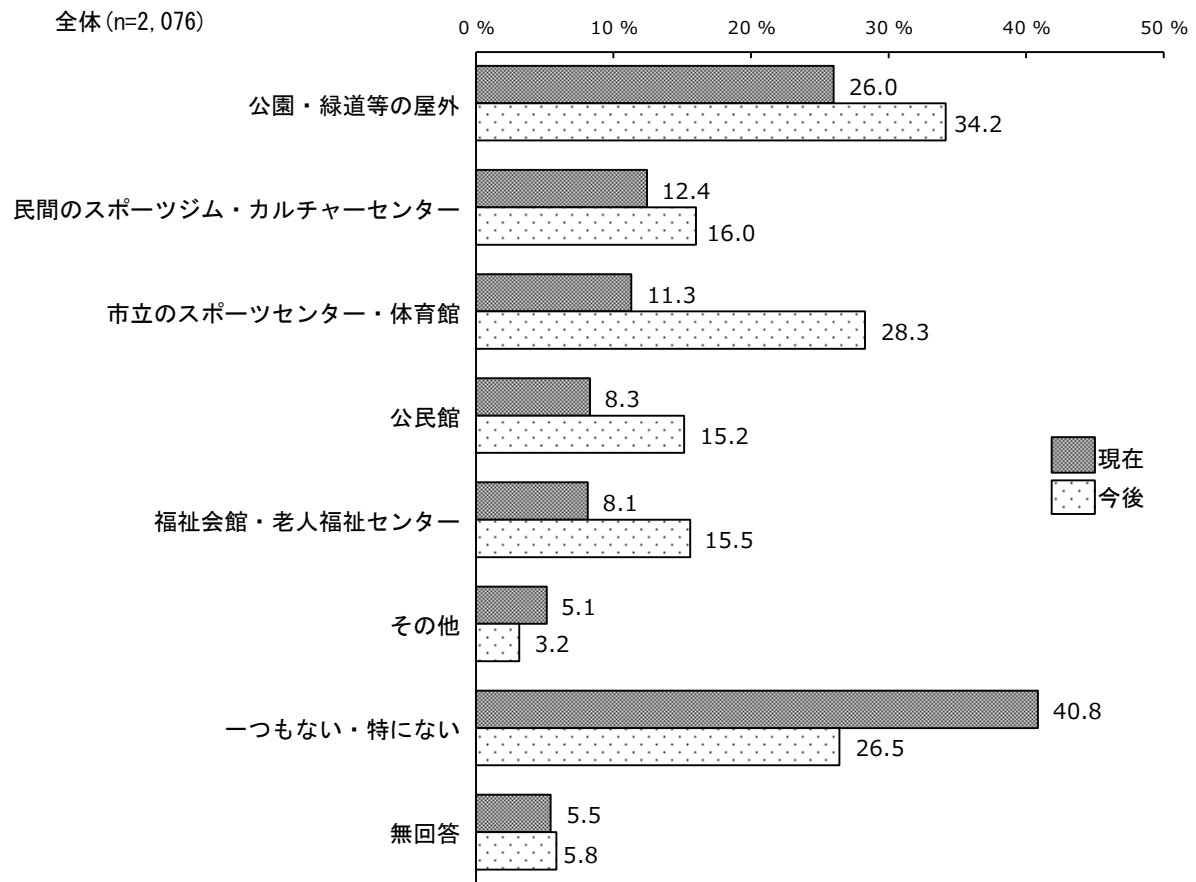
		(%)									
		よる報 情や報 や健康 知識の な提 供に	康心 診身の 断の機 能に 関す る健	場活さ 所動ま ややざ や地ま 機会な の活趣 動味・ 余暇	機健 会の体 操な の場 所や	窓介 口護 の予 防に 関す る相 談	室介 ・護 講予 演防 会の たの め開 催教	報栄 や養 や知 識の 提 供に 関す る情	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全	体 (n=1,634)	34.6	31.4	29.7	27.4	16.3	15.2	14.9	3.5	17.1	13.2
男 性	男性 計 (n=713)	31.8	32.8	31.1	20.6	15.8	11.6	12.6	2.9	20.6	11.5
	65～74歳 (n=384)	28.9	31.3	31.5	19.8	14.8	9.4	10.2	2.1	24.5	10.2
	75～84歳 (n=274)	35.0	36.1	33.2	21.2	17.2	15.0	14.2	3.6	15.0	12.8
	85歳以上 (n=43)	41.9	32.6	16.3	18.6	16.3	9.3	25.6	2.3	23.3	11.6
	無回答 (n=12)	16.7	8.3	25.0	41.7	16.7	16.7	8.3	16.7	16.7	25.0
女 性	女性 計 (n=904)	37.2	30.2	28.4	32.5	16.6	18.0	16.7	4.1	14.6	14.4
	65～74歳 (n=503)	40.0	31.2	35.2	34.8	17.1	19.5	17.5	4.2	12.3	11.7
	75～84歳 (n=340)	35.0	29.7	20.9	31.2	15.6	16.8	16.2	3.5	17.4	17.4
	85歳以上 (n=53)	24.5	22.6	15.1	17.0	20.8	11.3	13.2	7.5	20.8	20.8
		無回答 (n=8)	37.5	37.5	12.5	50.0	-	25.0	12.5	-	-

⑦ 健康維持のために現在利用している場所と今後の利用意向（問 33）

健康維持のために現在利用している場所は、「一つもない」（40.8%）が最も多く、「公園・緑道等の屋外」（26.0%）、「民間のスポーツジム・カルチャーセンター」（12.4%）と続いている。

また、健康維持のために今後利用したい場所は、「公園・緑道等の屋外」（34.2%）が最も多く、「市立のスポーツセンター・体育館」（28.3%）、「特にない」（26.5%）と続いている。

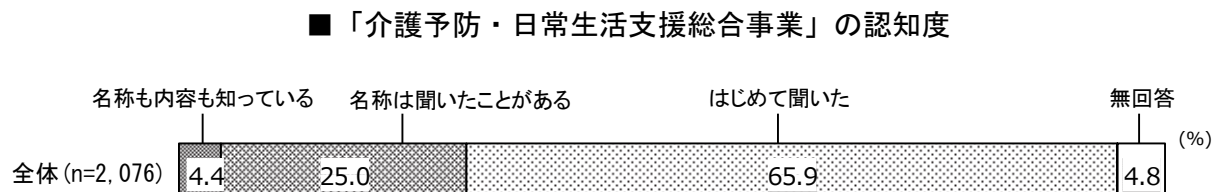
■健康維持のために現在利用している場所と今後の利用意向（複数回答）



(7) 介護予防

① 「介護予防・日常生活支援総合事業」の認知度 (問 34)

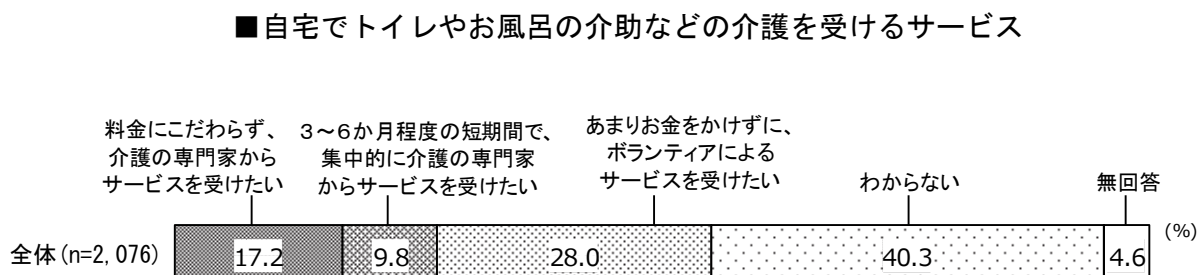
「介護予防・日常生活支援総合事業」の認知度は、「はじめて聞いた」(65.9%)が最も多く、「名称は聞いたことがある」(25.0%)、「名称も内容も知っている」(4.4%)と続いている。



② 家族以外の人からの介護や手助けが必要になった場合に受けたいサービス (問 35)

(1) 自宅でトイレやお風呂の介助などの介護を受けるサービス

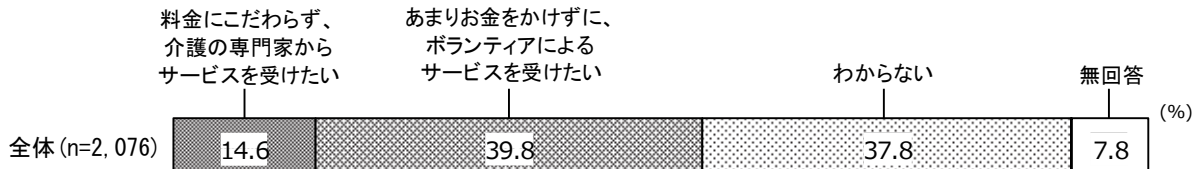
自宅でトイレやお風呂の介助などの介護を受けるサービスについては、「わからない」(40.3%)が最も多く、「あまりお金をかけずに、ボランティアによるサービスを受けたい」(28.0%)、「料金にこだわらず、介護の専門家からサービスを受けたい」(17.2%)と続いている。



(2) 自宅で掃除・調理・洗濯などを手伝ってもらうサービス

自宅で掃除・調理・洗濯などを手伝ってもらうサービスについては、「あまりお金をかけずに、ボランティアによるサービスを受けたい」(39.8%)が最も多く、「わからない」(37.8%)、「料金にこだわらず、介護の専門家からサービスを受けたい」(14.6%)と続いている。

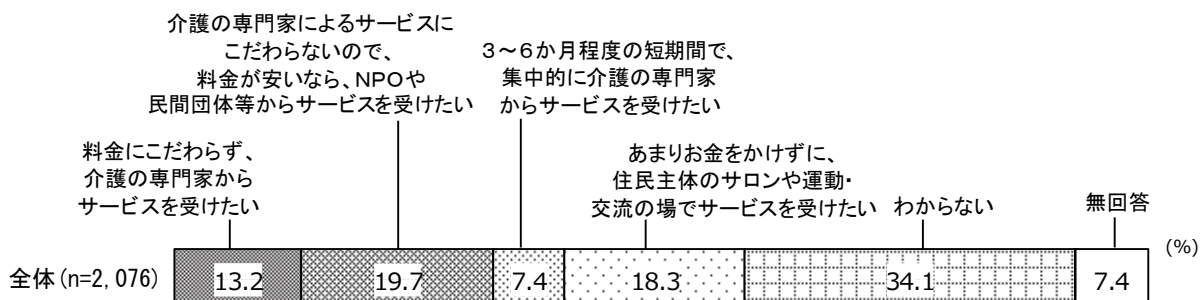
■自宅で掃除・調理・洗濯などを手伝ってもらうサービス



(3) デイサービスなどに通い、食事や入浴、衰えた運動能力の回復や口の中のケアなどを行うサービス

デイサービスなどに通い、食事や入浴、衰えた運動能力の回復や口の中のケアなどを行うサービスについては、「わからない」(34.1%)が最も多く、「介護の専門家によるサービスにこだわらないので、料金が安いなら、NPOや民間団体等からサービスを受けたい」(19.7%)、「あまりお金をかけずに、住民主体のサロンや運動・交流の場でサービスを受けたい」(18.3%)と続いている。

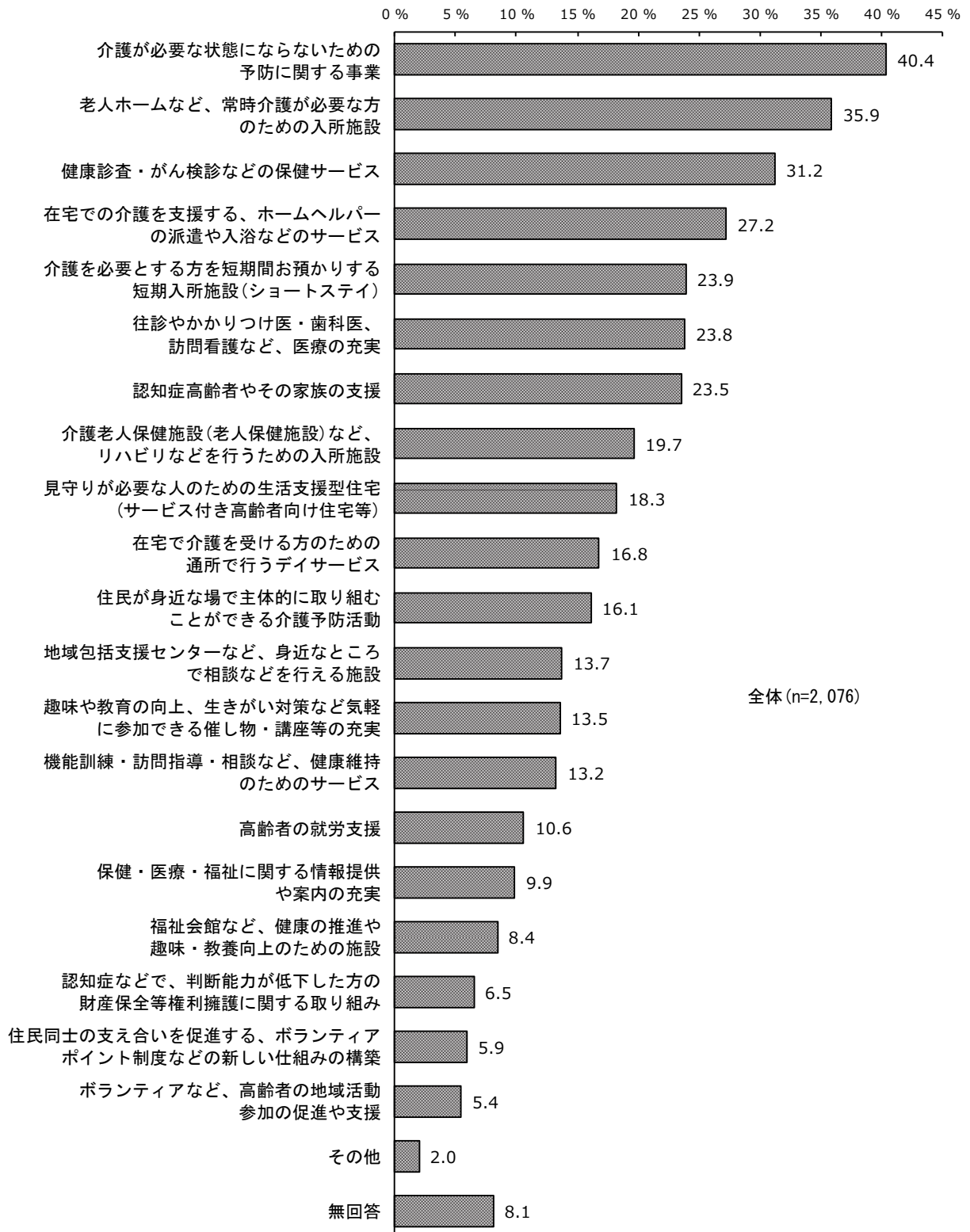
■デイサービスなどに通い、食事や入浴、衰えた運動能力の回復や口の中のケアなどを行うサービス



③ 市が取り組むべき介護保険・保健福祉サービス（問36）

市が取り組むべき介護保険・保健福祉サービスは、「介護が必要な状態にならないための予防に関する事業」（40.4%）が最も多く、「老人ホームなど、常時介護が必要な方のための入所施設」（35.9%）、「健康診査・がん検診などの保健サービス」（31.2%）と続いている。

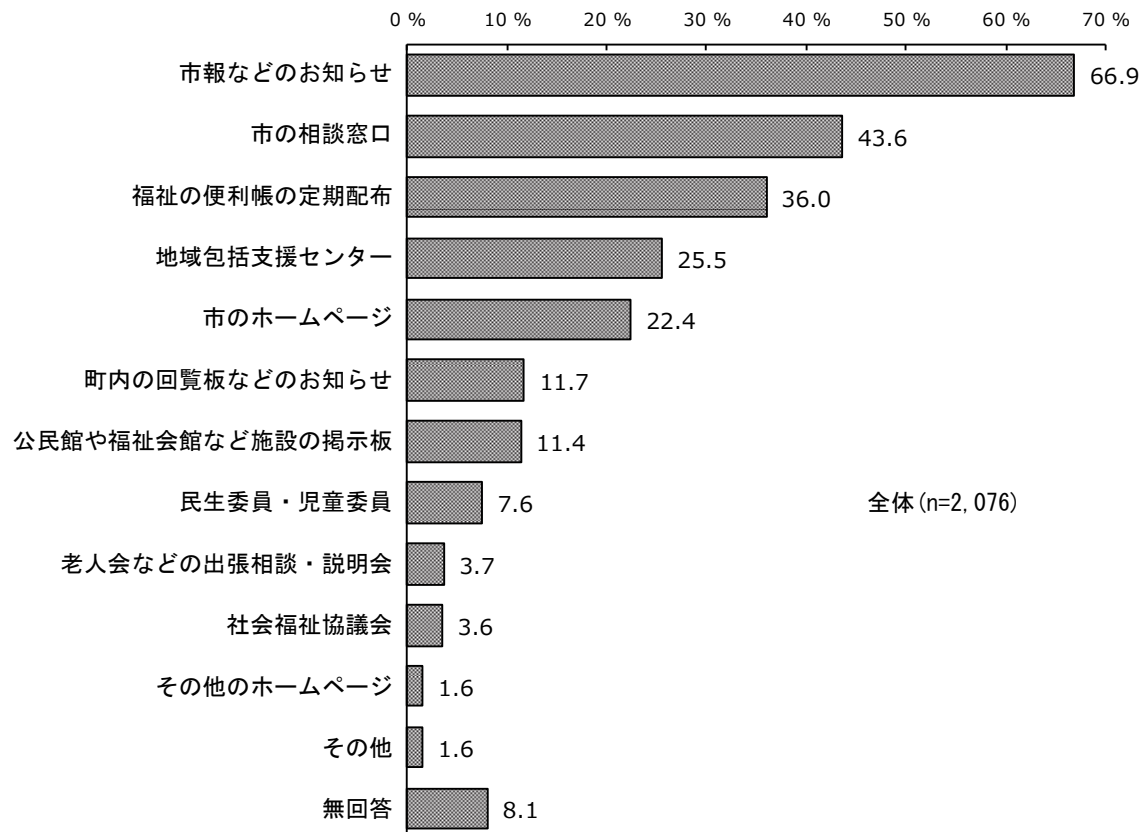
■市が取り組むべき介護保険・保健福祉サービス（複数回答（5つまで））



④ 福祉に関する情報の希望する入手方法（問 37）

福祉に関する情報の希望する入手方法は、「市報などのお知らせ」（66.9%）が最も多く、「市の相談窓口」（43.6%）、「福祉の便利帳の定期配布」（36.0%）と続いている。

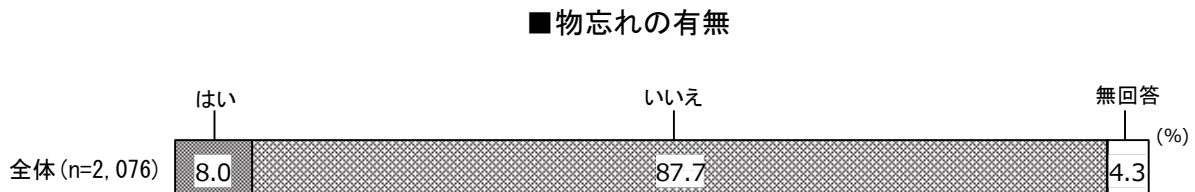
■福祉に関する情報の希望する入手方法（複数回答）



(8) 認知症や権利擁護

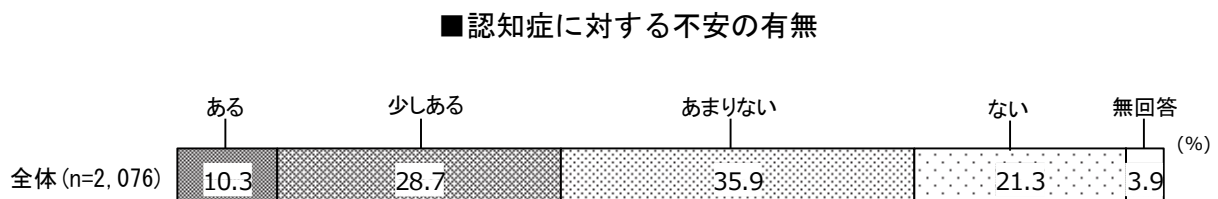
① 物忘れの有無 (問 38)

物忘れの有無は、「はい」が8.0%、「いいえ」が87.7%となっている。



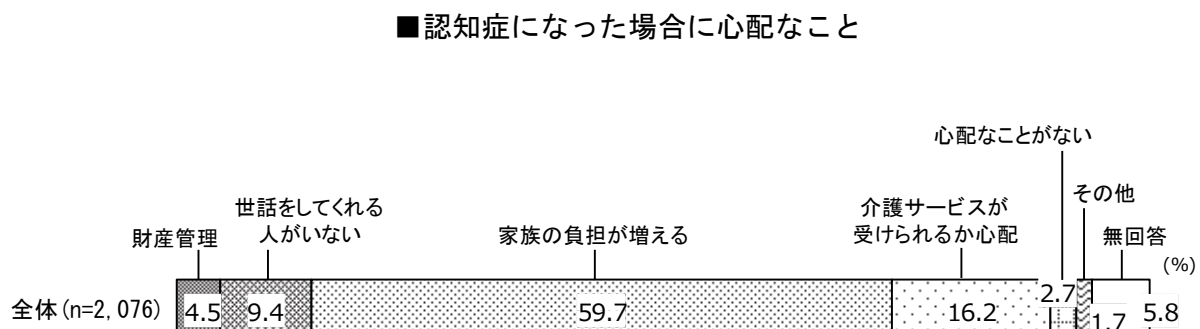
② 認知症に対する不安の有無 (問 39)

認知症に対する不安の有無は、「ある」が10.3%、「少しある」が28.7%、「あまりない」が35.9%、「ない」が21.3%となっている。



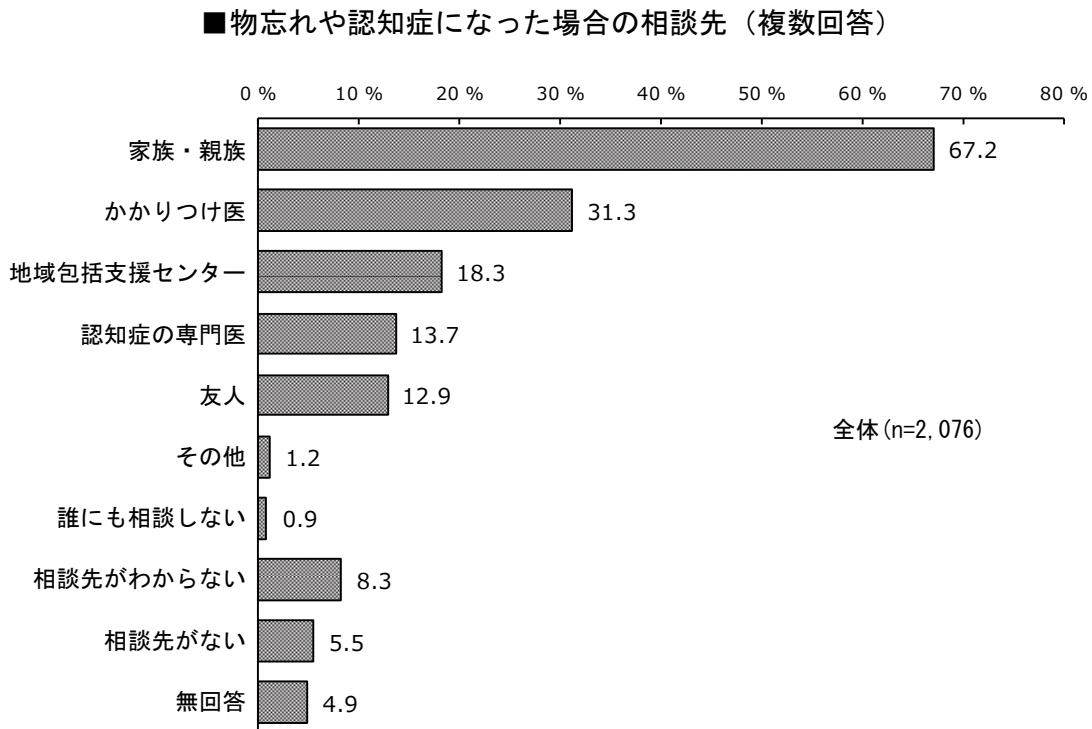
③ 認知症になった場合に心配なこと (問 40)

認知症になった場合に心配なことは、「家族の負担が増える」(59.7%)が最も多く、「介護サービスが受けられるか心配」(16.2%)、「世話をしてくれる人がいない」(9.4%)と続いている。



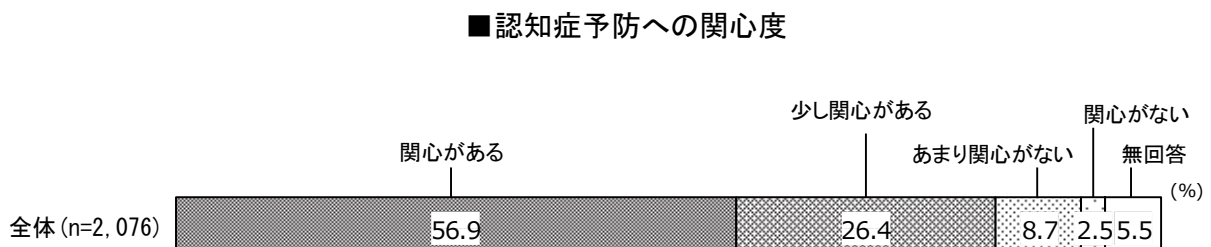
④ 物忘れや認知症になった場合の相談先（問 41）

物忘れや認知症になった場合の相談先は、「家族・親族」（67.2%）が最も多く、「かかりつけ医」（31.3%）、「地域包括支援センター」（18.3%）と続いている。



⑤ 認知症予防への関心度（問 42）

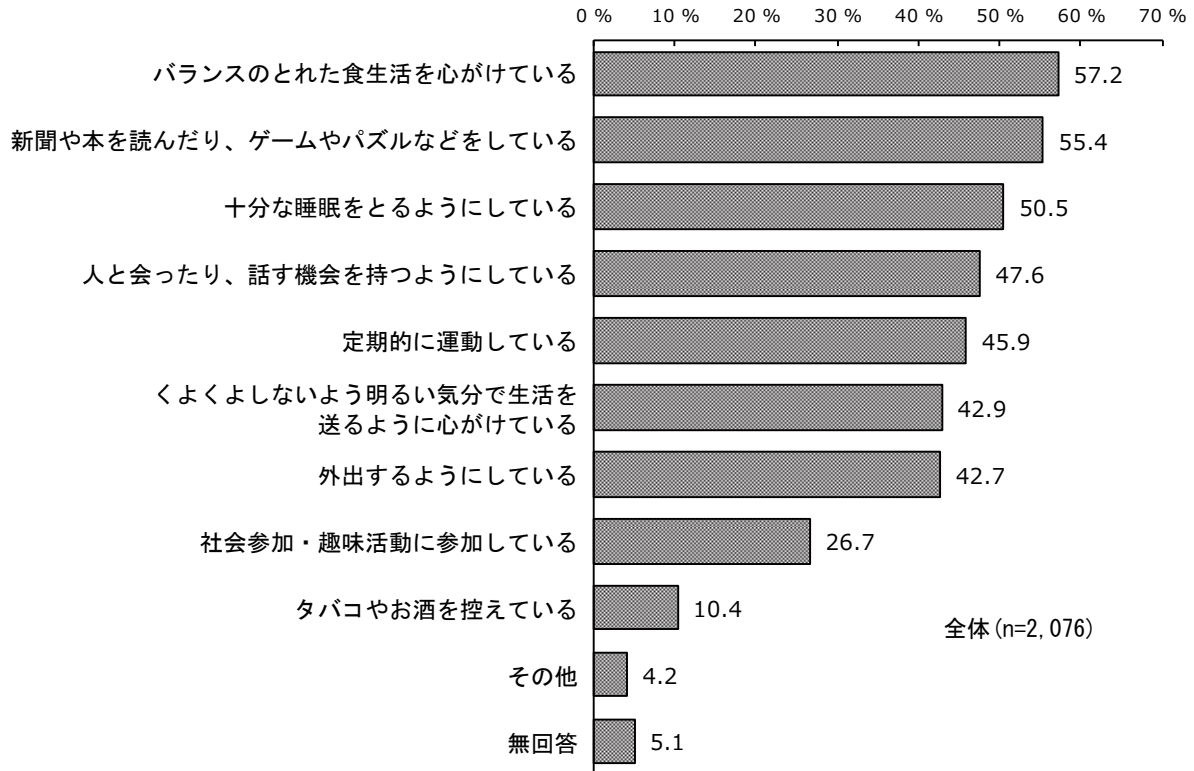
認知症予防への関心度は、「関心がある」が 56.9%、「少し関心がある」が 26.4%、「あまり関心がない」が 8.7%、「関心がない」が 2.5%となっている。



⑥ 認知症予防のために取り組んでいること（問43）

認知症予防のために取り組んでいることは、「バランスのとれた食生活を心がけている」（57.2%）が最も多く、「新聞や本を読んだり、ゲームやパズルなどを行っている」（55.4%）、「十分な睡眠をとるようにしている」（50.5%）と続いている。

■ 認知症予防のために取り組んでいること（複数回答）



⑦ 認知症の方への手伝いの意向（問44）

認知症の方への手伝いの意向は、「したい」が42.0%、「したくない」が47.8%となっている。

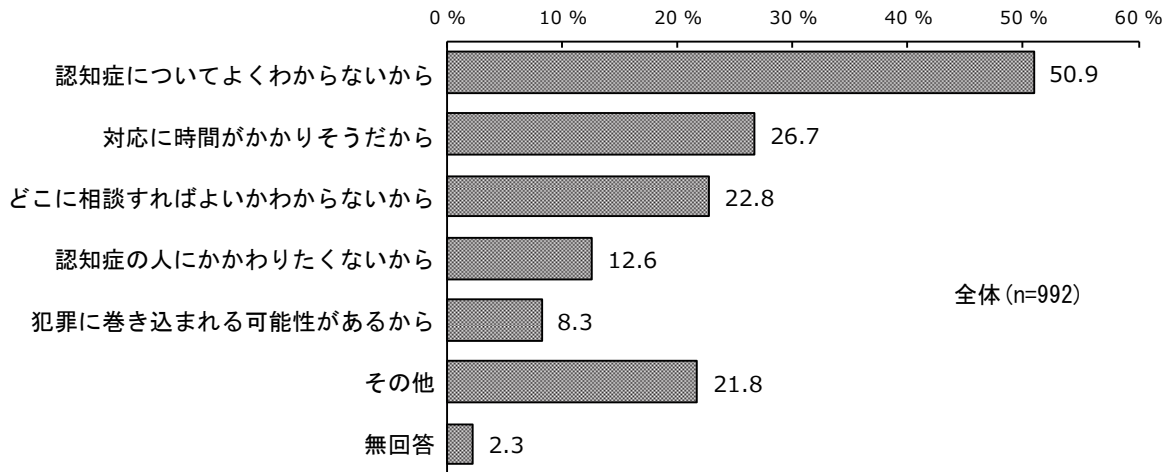
■ 認知症の方への手伝いの意向



⑧ 認知症の方への手伝いをしたくない理由（問 44 付問）

認知症の方への手伝いをしたくない人（問 44 で「したくない」と回答した人）の理由は、「認知症についてよくわからないから」（50.9%）が最も多く、「対応に時間がかかりそうだから」（26.7%）、「どこに相談すればよいかわからないから」（22.8%）と続いている。

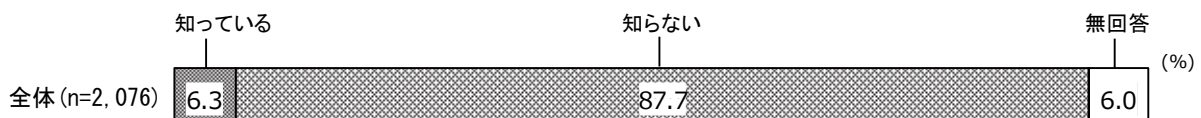
■ 認知症の方への手伝いをしたくない理由（複数回答）
 〈認知症の方への手伝いをしたくない人〉



⑨ 認知症簡易チェックリストの認知度（問 45）

認知症簡易チェックリストの認知度は、「知っている」が 6.3%、「知らない」が 87.7% となっている。

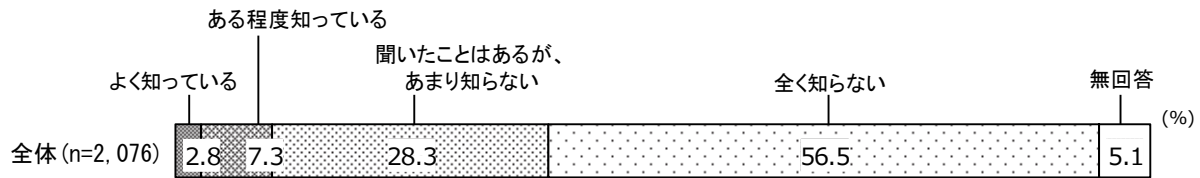
■ 認知症簡易チェックリストの認知度



⑩ 認知症サポーターの認知度（問46）

認知症サポーターの認知度は、「よく知っている」が2.8%、「ある程度知っている」が7.3%、「聞いたことはあるが、あまり知らない」が28.3%、「全く知らない」が56.5%となっている。

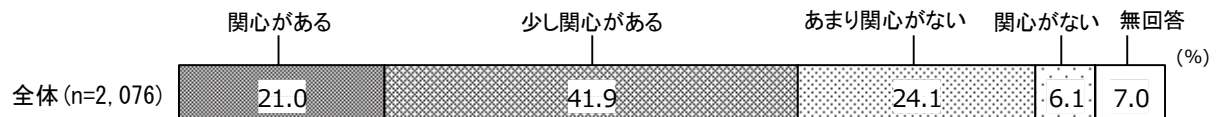
■ 認知症サポーターの認知度



⑪ 認知症サポーターへの関心度（問47）

認知症サポーターへの関心度は、「関心がある」が21.0%、「少し関心がある」が41.9%、「あまり関心がない」が24.1%、「関心がない」が6.1%となっている。

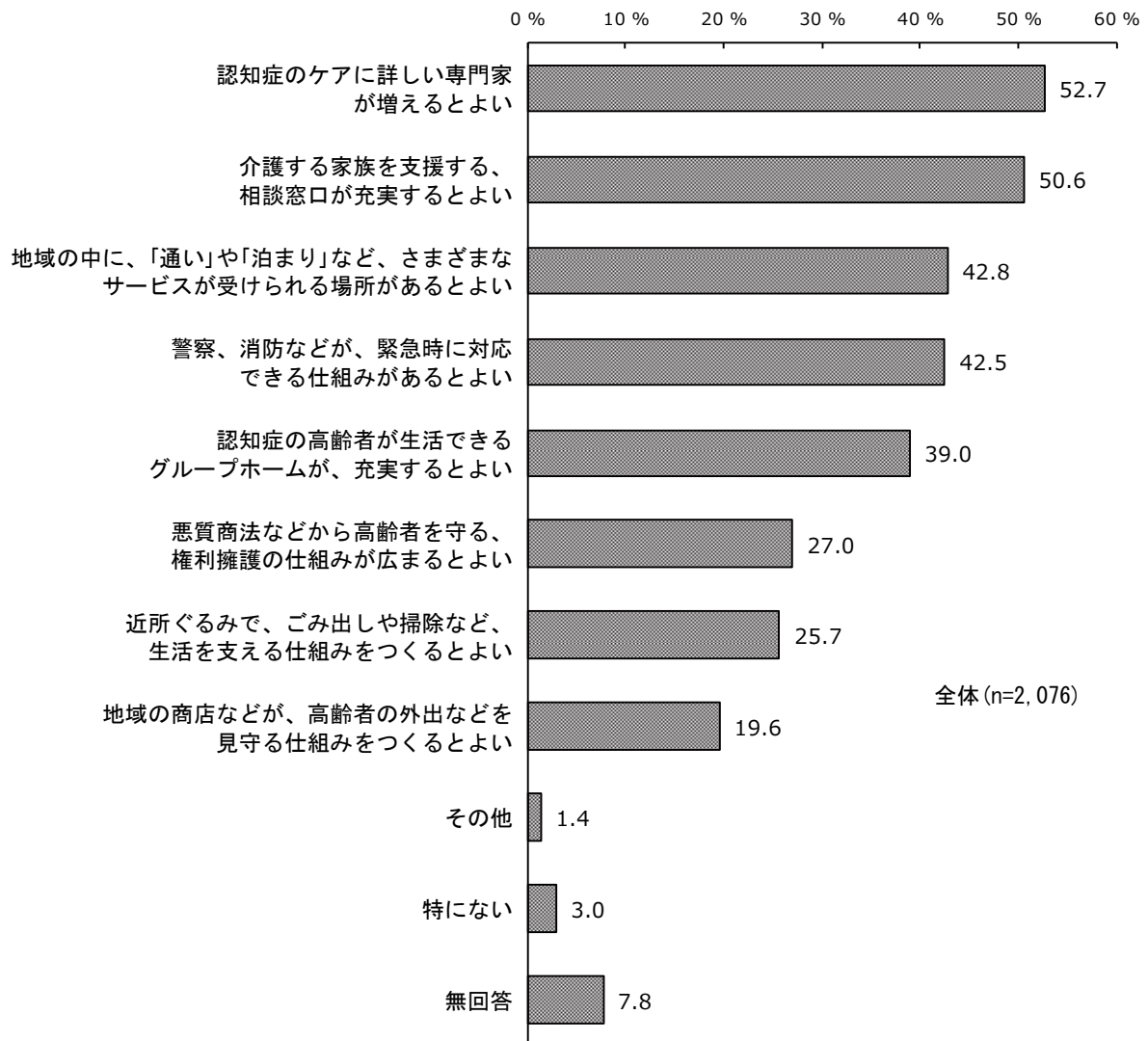
■ 認知症サポーターへの関心度



⑫ 認知症になっても暮らしていけるためのまちづくりがあるとよいこと（問 48）

認知症になっても暮らしていけるためのまちづくりがあるとよいことは、「認知症のケアに詳しい専門家が増えるとよい」(52.7%)が最も多く、「介護する家族を支援する、相談窓口が充実するとよい」(50.6%)、「地域の中に、『通い』や『泊まり』など、さまざまなサービスが受けられる場所があるとよい」(42.8%)と続いている。

■ 認知症になっても暮らしていけるためのまちづくりがあるとよいこと（複数回答）

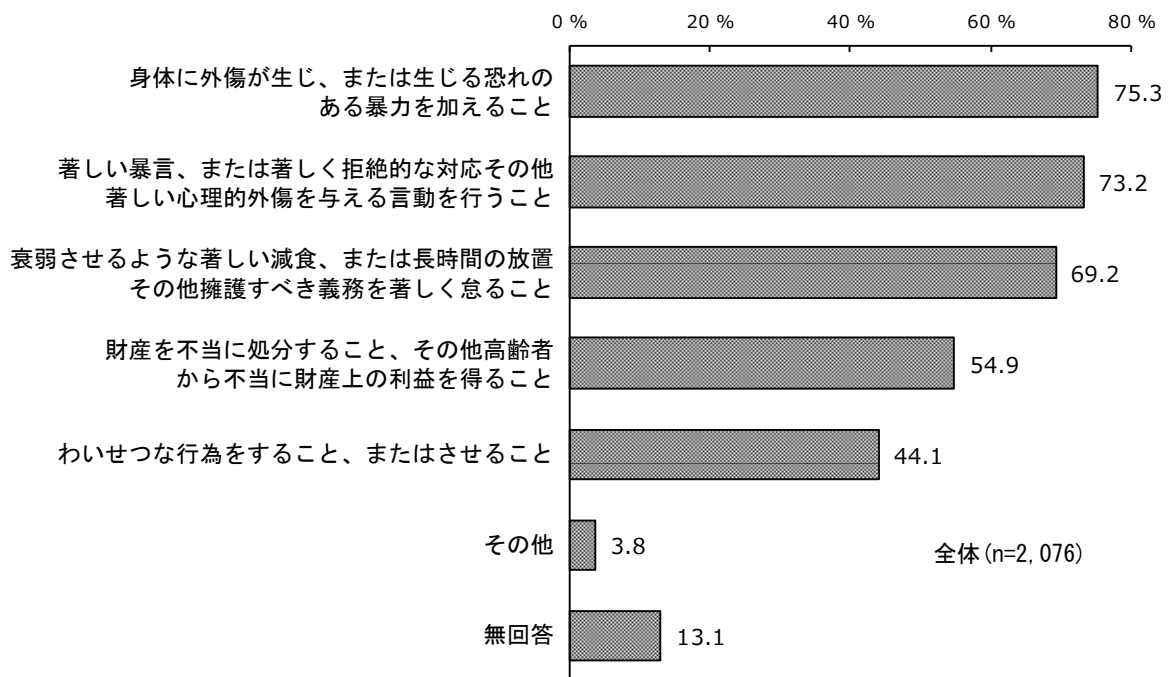


(9) 高齢者虐待

① 高齢者虐待だと思うこと (問 49)

高齢者虐待だと思うことは、「身体に外傷が生じ、または生じる恐れのある暴力を加えること」(75.3%)が最も多く、「著しい暴言、または著しく拒絶的な対応その他著しい心理的外傷を与える言動を行うこと」(73.2%)、「衰弱させるような著しい減食、または長時間の放置その他擁護すべき義務を著しく怠ること」(69.2%)と続いている。

■ 高齢者虐待だと思うこと (複数回答)



② 高齢者虐待に気づいたことの有無 (問 50)

高齢者虐待に気づいたことの有無は、「ある」が5.3%、「ない」が81.3%となっている。

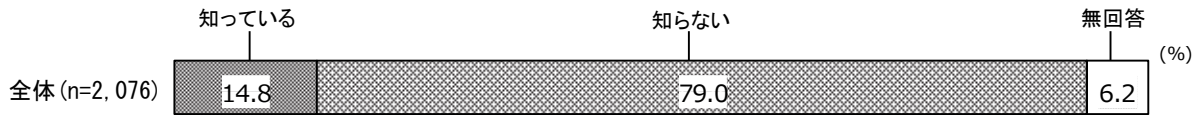
■ 高齢者虐待に気づいたことの有無



③ 高齢者虐待の通報先や相談先の認知（問 51）

高齢者虐待の通報先や相談先の認知は、「知っている」が 14.8%、「知らない」が 79.0% となっている。

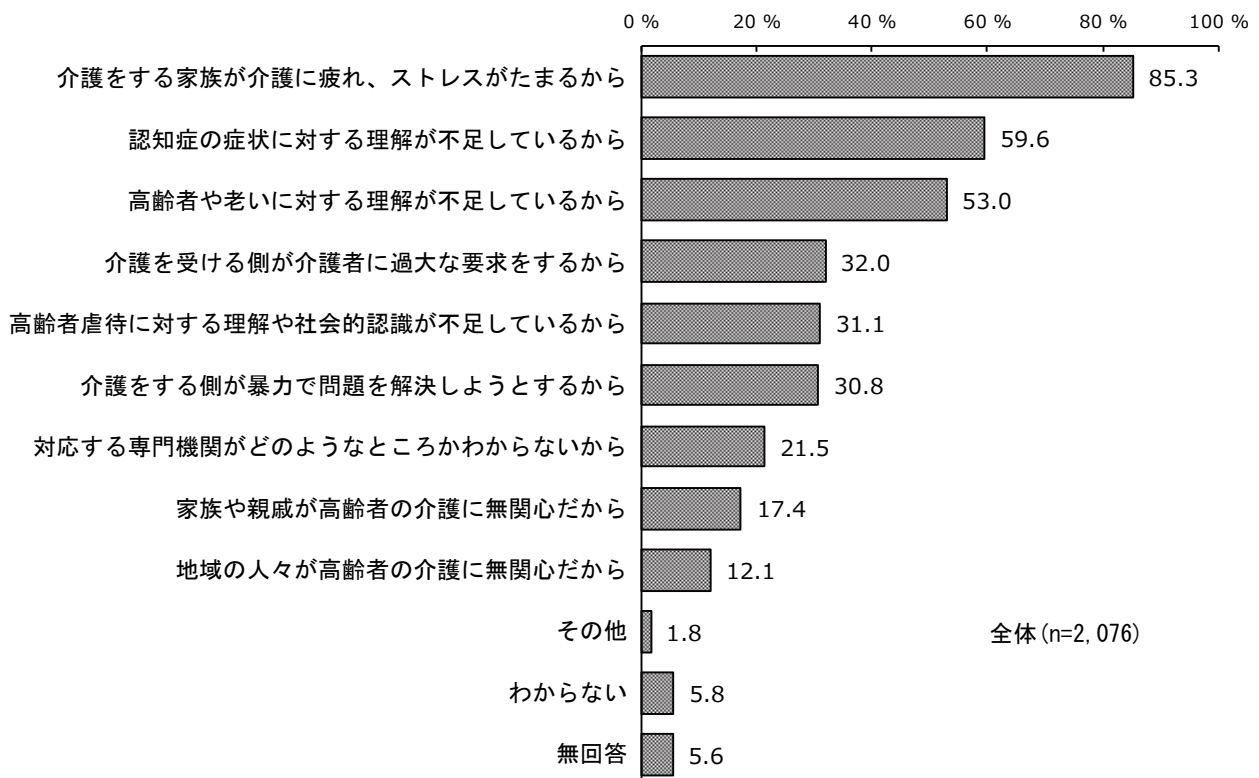
■ 高齢者虐待の通報先や相談先の認知



④ 高齢者虐待が起きる理由や背景だと思うこと（問 52）

高齢者虐待が起きる理由や背景だと思うことは、「介護をする家族が介護に疲れ、ストレスがたまるから」（85.3%）が最も多く、「認知症の症状に対する理解が不足しているから」（59.6%）、「高齢者や老いに対する理解が不足しているから」（53.0%）と続いている。

■ 高齢者虐待が起きる理由や背景だと思うこと（複数回答）



(10) 介護の経験

① 中心となって介護をしている両親や親せきの有無 (問 53)

中心となって介護をしている両親や親せきの有無は、「いる」が12.5%、「いない」が83.9%となっている。

■中心となって介護をしている両親や親せきの有無

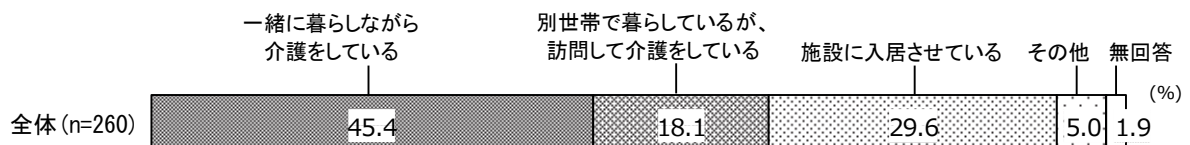


② 介護をしている形 (問 53 付問 1)

中心となって介護をしている両親や親せきがいる人 (問 53 で「いる」と回答した人) の介護をしている形は、「一緒に暮らしながら介護をしている」(45.4%) が最も多く、「施設に入居させている」(29.6%)、「別世帯で暮らしているが、訪問して介護をしている」(18.1%) と続いている。

■介護をしている形

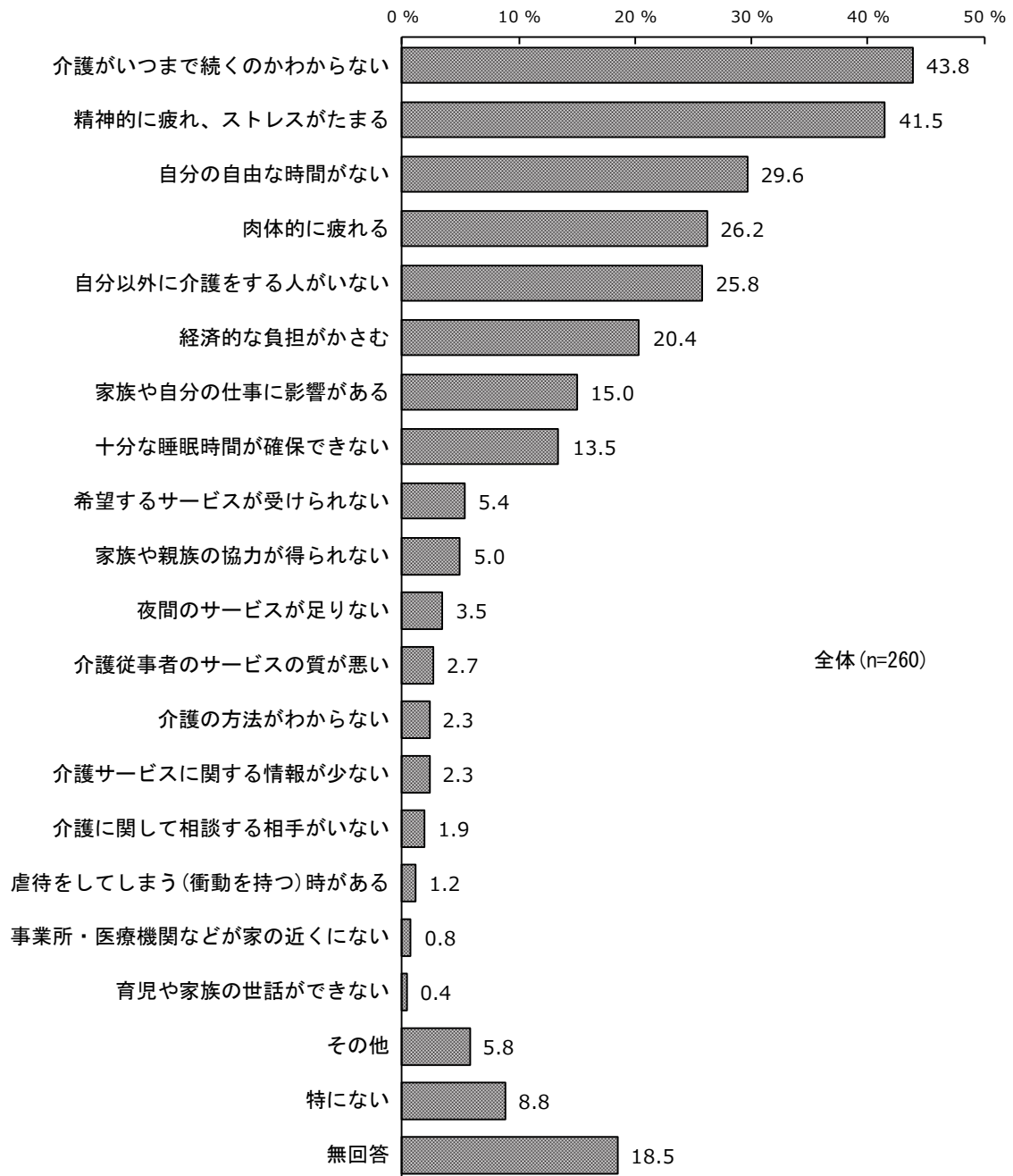
〈中心となって介護をしている両親や親せきがいる人〉



③ 介護をするうえでの困りごと（問 53 付問 2）

介護をしている両親や親せきがいる人（問 53 で「いる」と回答した人）の介護をするうえでの困りごとは、「介護がいつまで続くのかわからない」（43.8%）が最も多く、「精神的に疲れ、ストレスがたまる」（41.5%）、「自分の自由な時間がない」（29.6%）と続いている。

■ 介護をするうえでの困りごと（複数回答）
 〈中心となって介護をしている両親や親せきがいる人〉

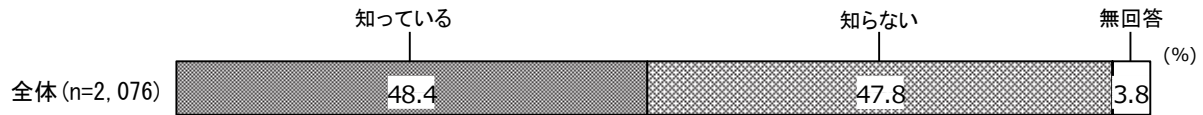


(11) 介護保険制度

① 地域包括支援センターの認知（問 54）

地域包括支援センターの認知は、「知っている」が48.4%、「知らない」が47.8%となっている。

■地域包括支援センターの認知



平成25年度調査と比較すると、「知っている」が4.4ポイント増加し、「知らない」が5.5ポイント減少している。

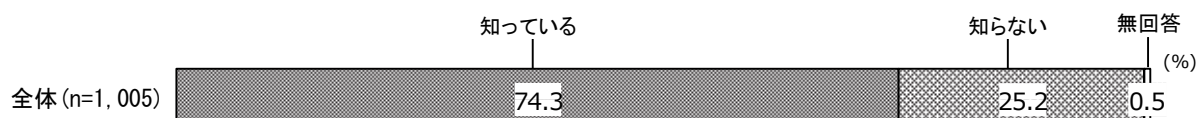
■【前回比較】地域包括支援センターの認知

	割合 (%)		
	知っている	知らない	無回答
平成28年度調査 (n=2,076)	48.4	47.8	3.8
平成25年度調査 (n=2,039)	44.0	53.3	2.7

② 地域包括支援センターの場所の認知（問 54 付問）

地域包括支援センターを知っている人（問 54 で「知っている」と回答した人）の場所の認知は、「知っている」が74.3%、「知らない」が25.2%となっている。

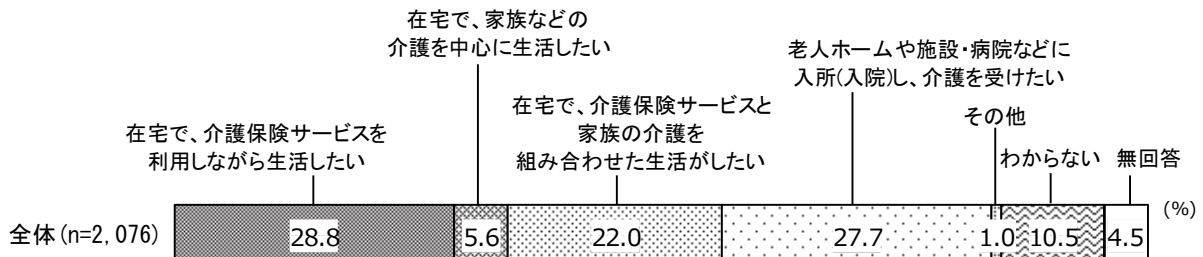
■地域包括支援センターの場所の認知
〈地域包括支援センターを知っている人〉



③ 介護が必要になった場合に生活したい場所（問 55）

介護が必要になった場合に生活したい場所は、「在宅で、介護保険サービスを利用しながら生活したい」（28.8%）が最も多く、「老人ホームや施設・病院などに入所（入院）し、介護を受けたい」（27.7%）、「在宅で、介護保険サービスと家族の介護を組み合わせたい」（22.0%）と続いている。

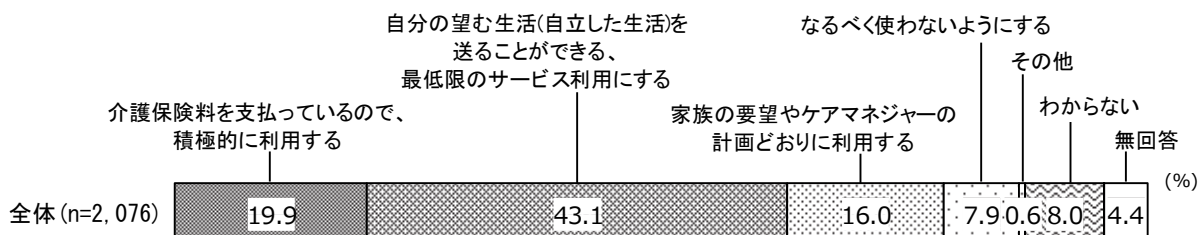
■介護が必要になった場合に生活したい場所



④ 介護保険サービスの利用についての考え（問 56）

介護保険サービスの利用についての考えは、「自分の望む生活（自立した生活）を送ることができる、最低限のサービス利用にする」（43.1%）が最も多く、「介護保険料を支払っているので、積極的に利用する」（19.9%）、「家族の要望やケアマネジャーの計画どおりに利用する」（16.0%）と続いている。

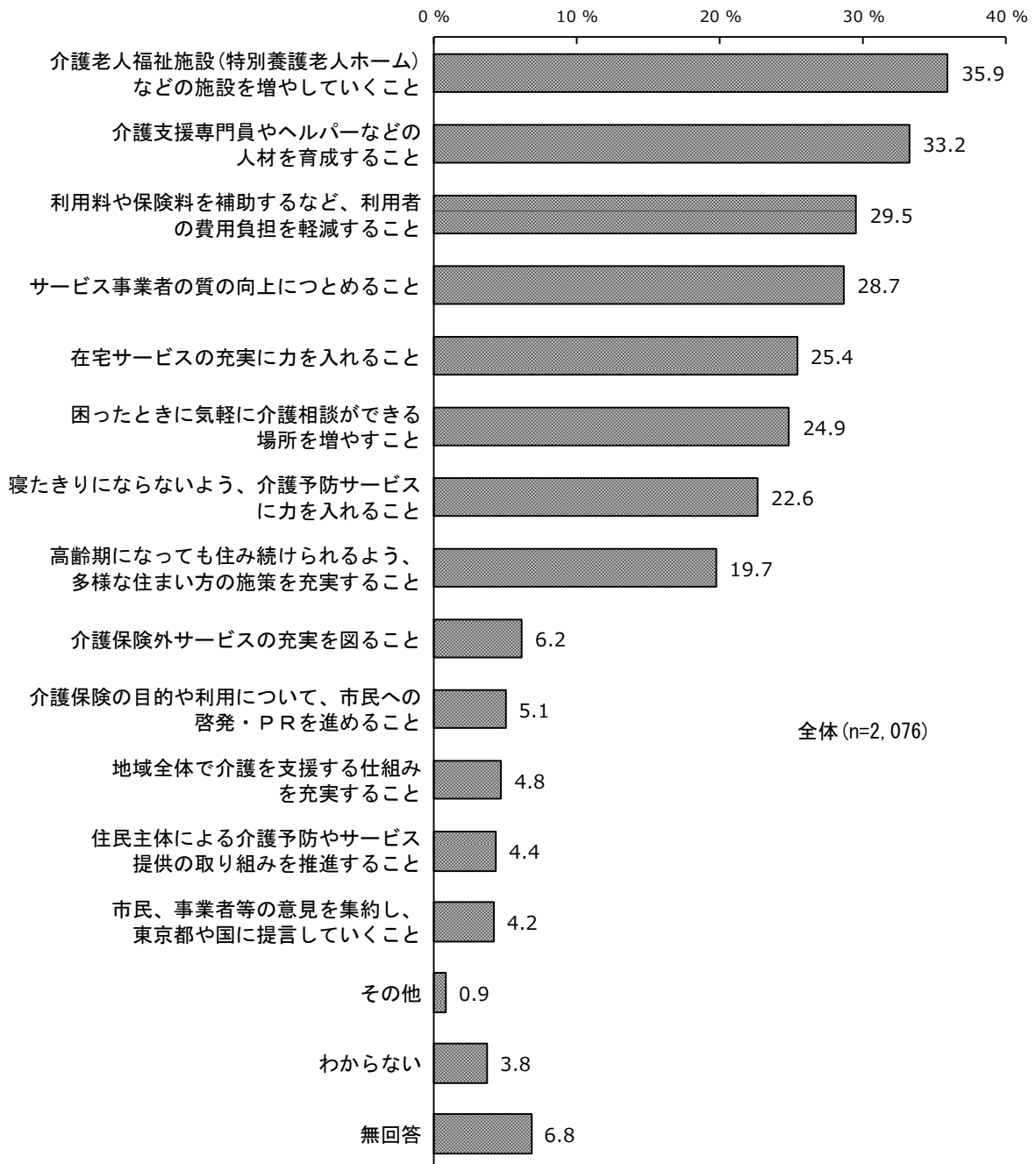
■介護保険サービスの利用についての考え



⑤ 介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきこと（問57）

介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきことは、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）などの施設を増やしていくこと」（35.9%）が最も多く、「介護支援専門員やヘルパーなどの人材を育成すること」（33.2%）、「利用料や保険料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減すること」（29.5%）と続いている。

■介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきこと（複数回答（3つまで））



⑥ 高齢者保健福祉サービス、介護保険制度への意見・要望（問 58）

高齢者保健福祉サービス、介護保険制度について、自由記述形式でうかがい、内容ごとに分類・整理を行った。主な意見は、以下のとおりとなっている。

◇情報提供・相談支援について

- ・ホームページが見られない人のために、市や地域包括支援センターで気軽に相談できる窓口を充実させてほしい。
- ・介護保険制度が年々変わって、内容を詳しく知らない人が増えてきている。広報等で解説してもらえると有難い。
- ・「ホームページに載せている」との言葉が溢れているが、パソコンが不得手な高齢者がたくさんいることを忘れないでほしい。
- ・市の外れに住んでおり、情報が乏しく、不公平感がある。

◇経済的な問題について

- ・年金が少しずつ減額されてきており、介護保険料もそれに見合うようにしてほしい。
- ・国民年金で生活を送る場合でも、介護が受けられる制度を実現してほしい。

◇広域的な連携について

- ・区市町村単独ではなく、もっと広域的に対応していく必要があると思う。また、市独自の健康診断なども、隣接する区市町村と合同で行なうことを検討してほしい。

◇介護予防について

- ・リハビリ的な高齢者向けの体操をしたり、健康の推進や介護予防に役立つ、楽しい機会や場を設けてほしい。
- ・しゃきしゃき体操は大変良い企画だと思うが、高齢者にはちょっときつく感じ、曲が難しく覚えられない。他県などでは長く親しまれてきた曲に体操をとり入れている。
- ・介護が不要となるような予防対策、予防プログラムの積極的な推進を継続的に実行するため、民間の協力を得てはどうか。

◇在宅療養について

- ・在宅療養は介護者への負担が大きく、ストレスがかかるが、施設より何倍も充実したサービスを感じ、感謝している。
- ・自宅で最期を迎えたいと希望する人は多いと思われるが、家族の負担が大き過ぎると思う。個人（家族）の能力に頼らないで、市や国がきちんとした施策を取るべきだと思う。
- ・手当の支給など、介護者への配慮があると良い。

◇介護保険料について

- ・介護保険料を引き下げてほしい。
- ・年金が下がって、介護保険料の支払いが大変になっている。

◇介護人材の育成について

- ・介護支援専門員やヘルパーなどの人材育成をしてほしい。
- ・介護サービス従事者の待遇改善を進めるべき。

◇施設の整備について

- ・人口の割に、市内の特別養護老人ホームは少ないと思う。グループホーム等も増やしてほしい。

◇住まいについて

- ・老人ホームは高すぎるので、ケア付き高齢者向け住宅を増やしてほしい。

◇移動支援について

- ・外出が困難となり、病院へ行くのにもタクシーを使わなければならない場合、毎回では負担が大きい。少しでも補助があると有難い。

◇見守りにについて

- ・安否確認等の見守り活動を充実してほしい。
- ・認知症などになった場合、地域で見守る仕組みがあることが望ましい。

◇生涯学習の場の確保について

- ・高齢期になっても学びたい気持ちはある。市主催の生涯学習教室のような学ぶ場所がほしい。

◇活動の場について

- ・住宅地に近い場所に、高齢者が自由に運動できる広場がほしい。

◇地域のつながりについて

- ・行政に任せるだけではなく、地域の中でお互いに支え合っていくことが大切であると考えている。
- ・地域、近隣、町内会等のふれあいがほとんどない状態で、行政が全てを行うことは無理がある。自治会、町内会活動を活発にし、地域活動への参加の敷居を極力低くする取り組みを行政は行ってほしい。

◇多世代交流について

- ・高齢者と子どもたちとの接点を多くするなど、社会全体で理解し合う場づくりを推進してほしい